

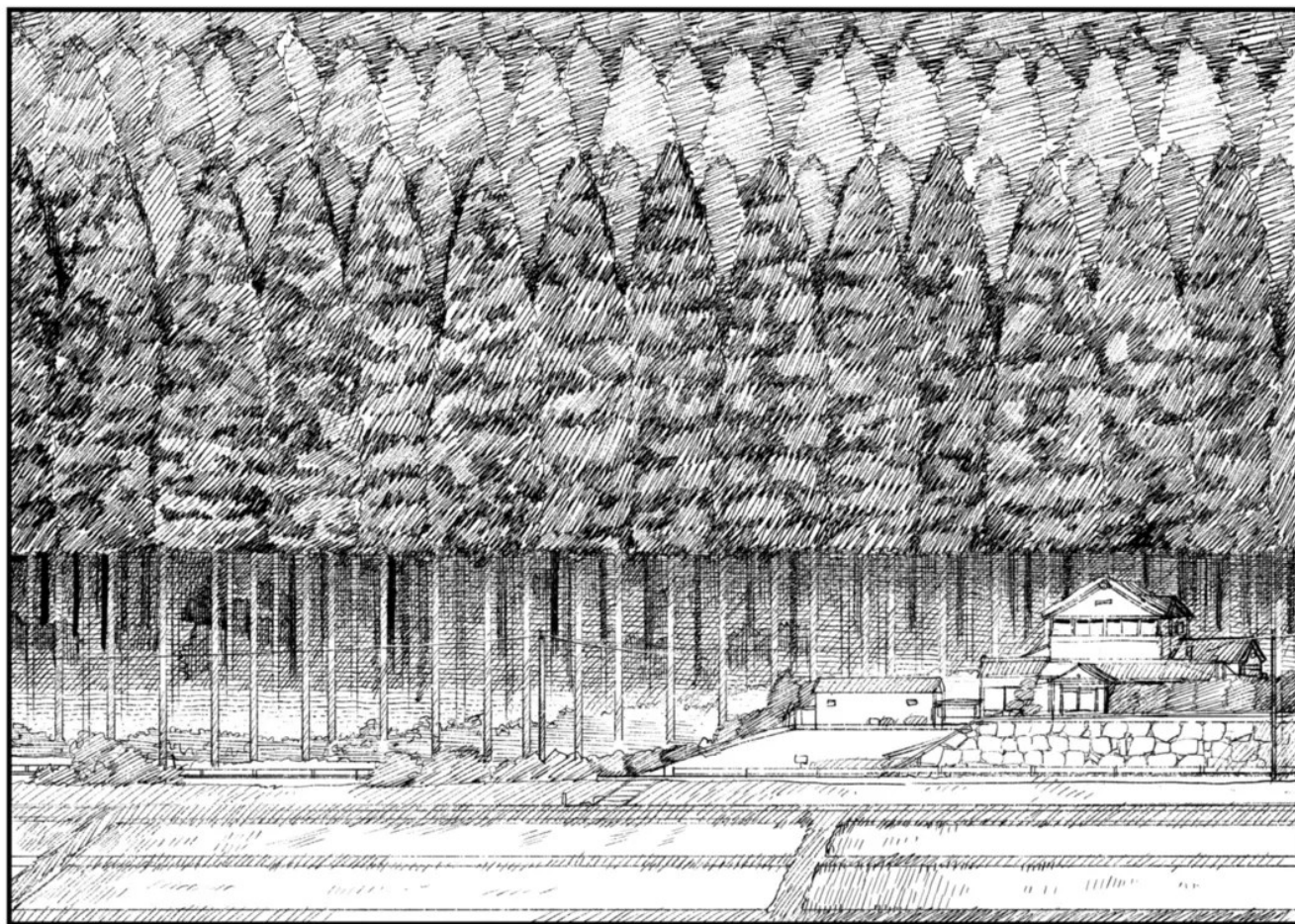


あの夏、
秘密のコンフィチュール

*Secret summer days
with Jue and Rukia.*

全四章 96P

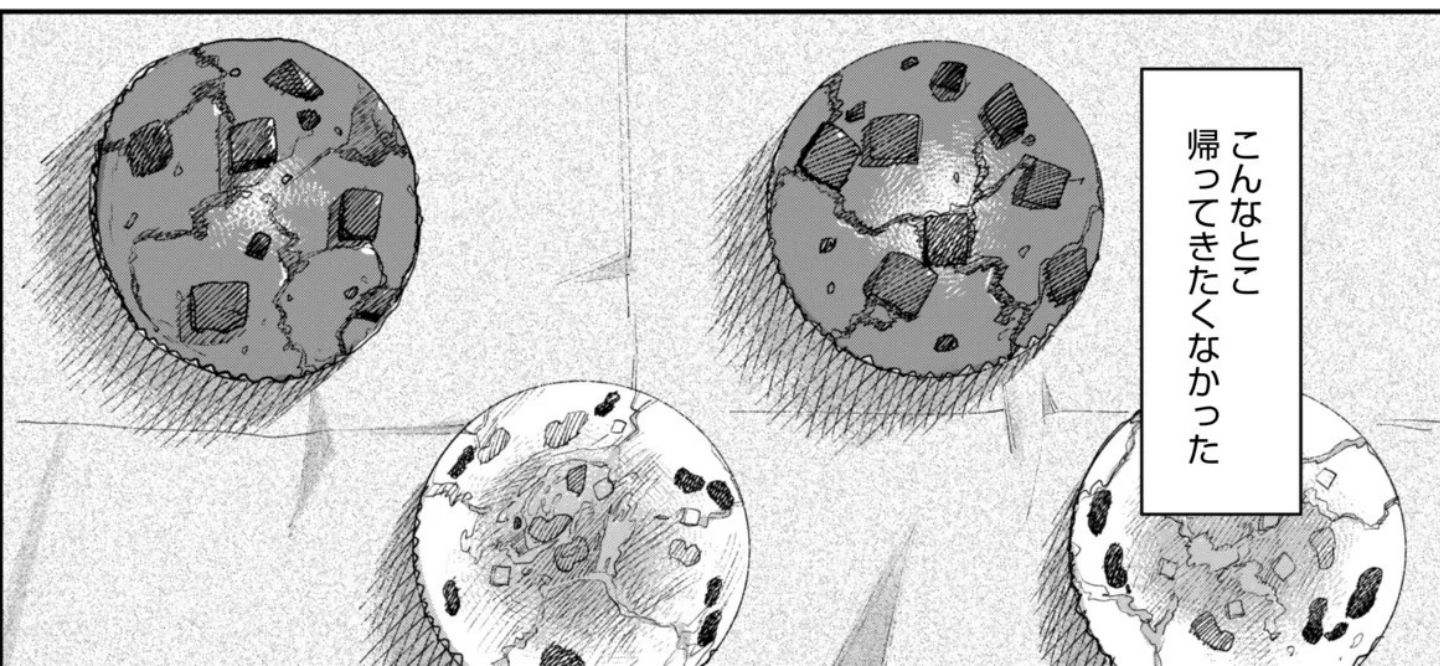
Presented by
シャモナベ



一章

慧











あーあれは…

お兄さん！
待ってください！

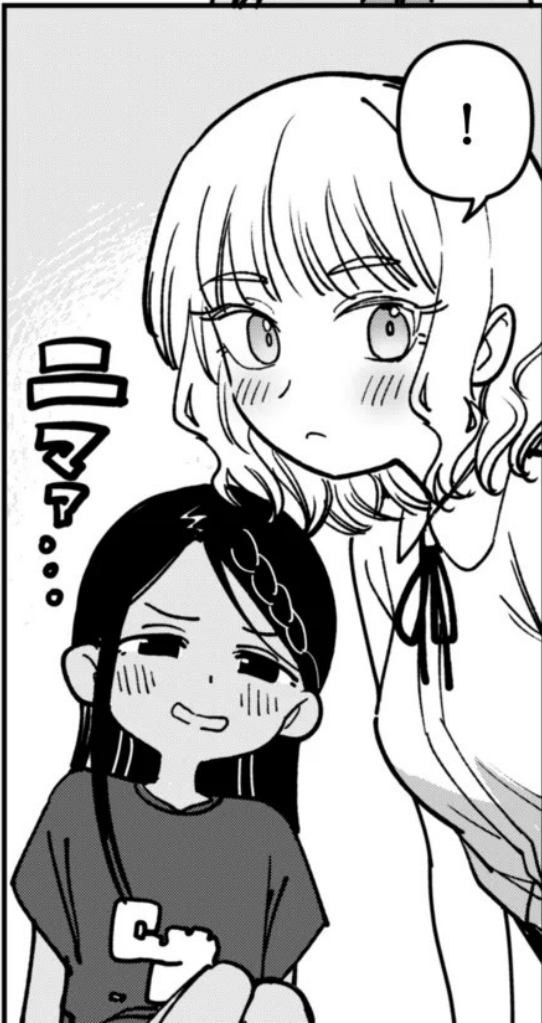
すーちゃん
どんなジャム
だったんですか？

えっとね…
たしか赤っぽくて

ちよつと
酸っぱかった？
かな

あ
いい匂いもした

どこかで嗅いだこと
ある気がするんだよね



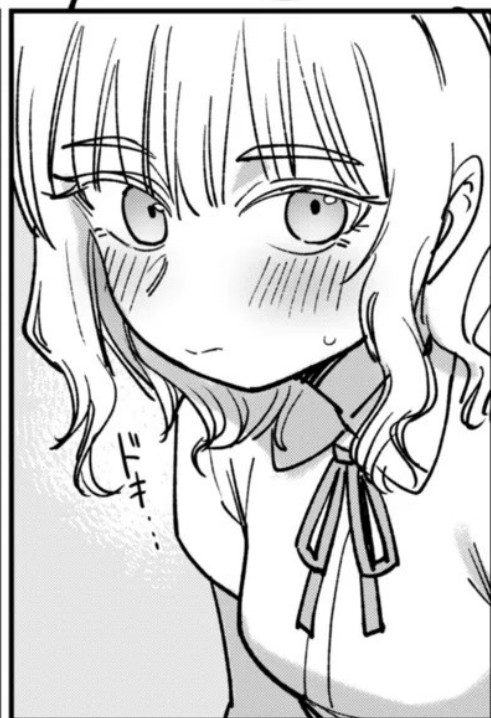
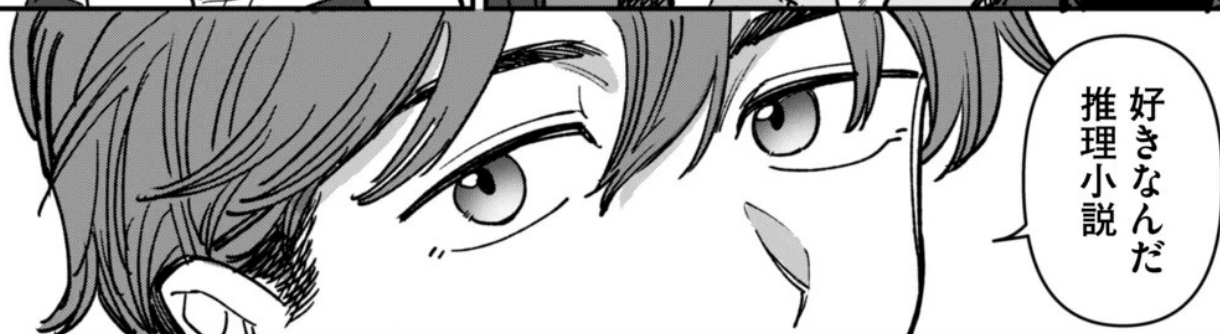
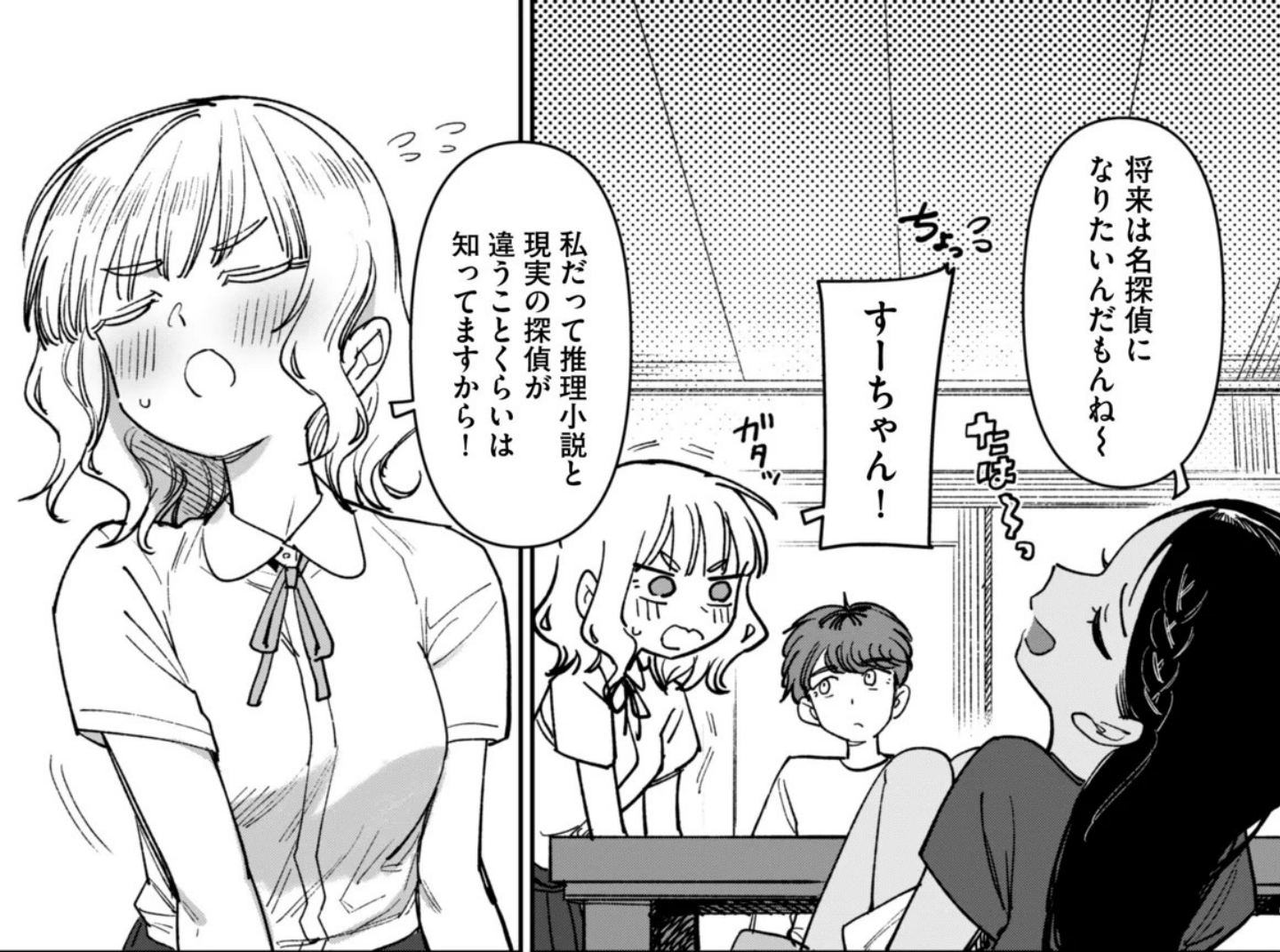
凛々花ちゃん
探偵みたいだね

それだけですか…？

いっぱい
言っただじゃん

ええ…

ニヤァ…

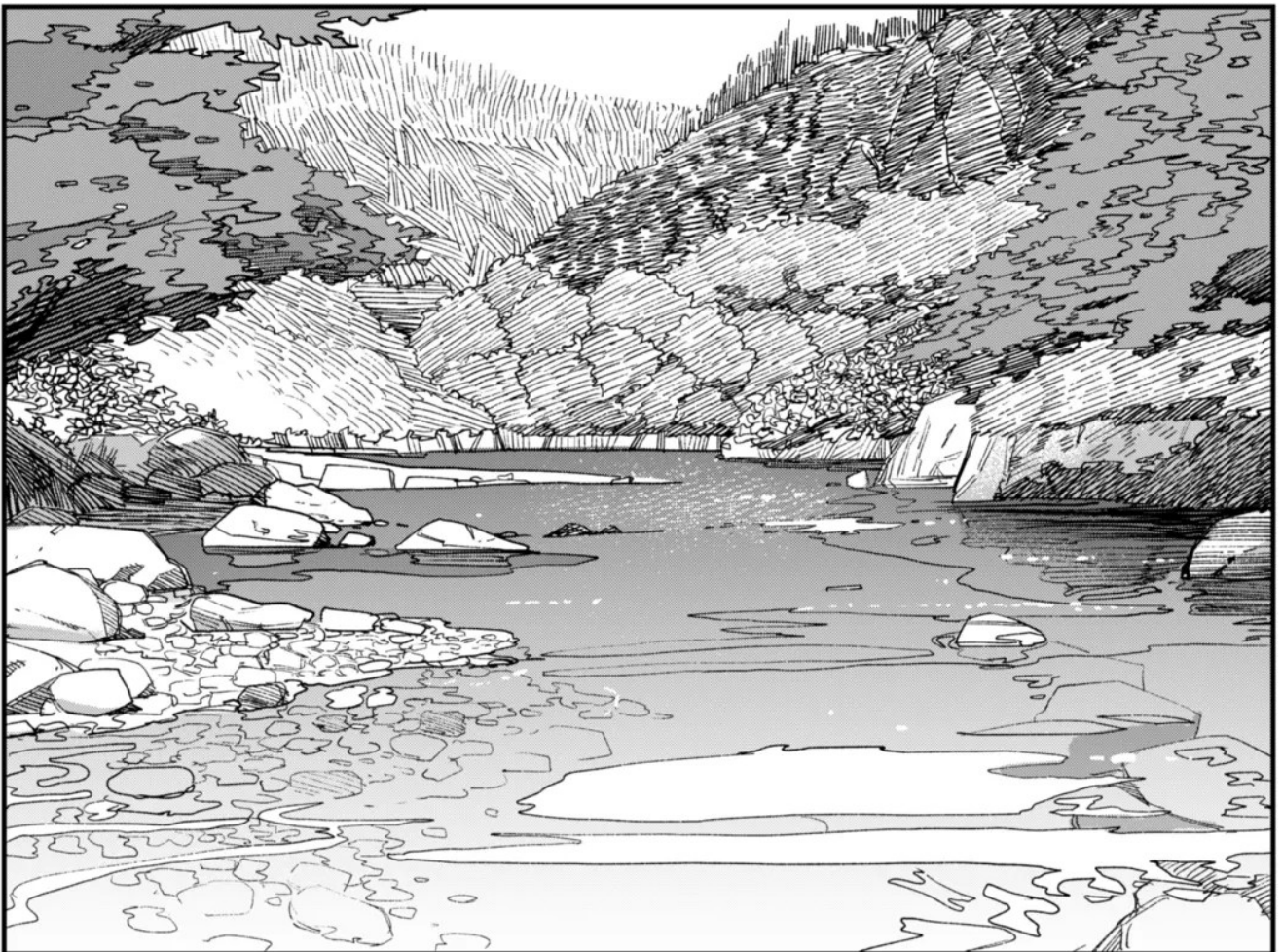


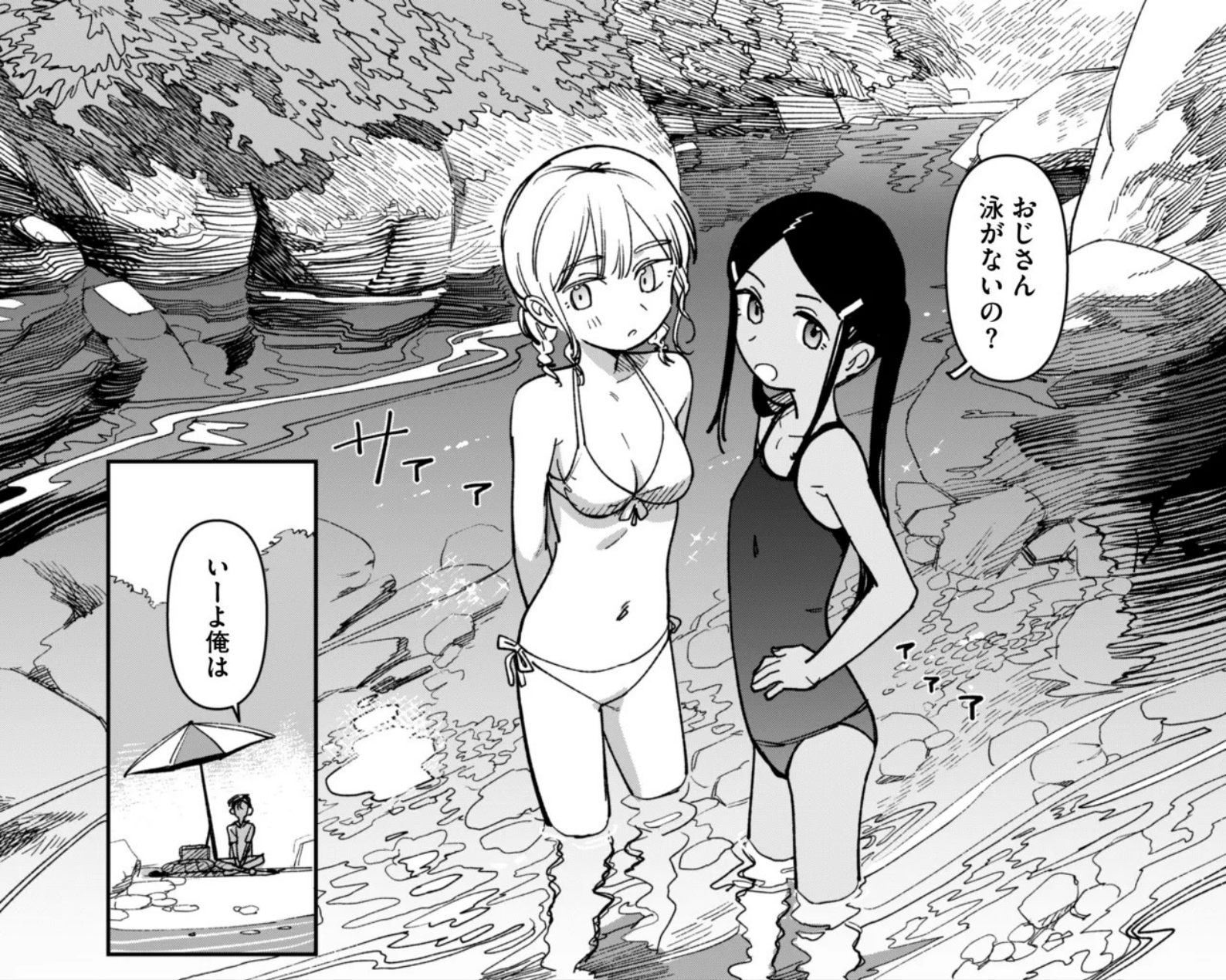


父親が横領で捕まった
会社だけじゃなく
家の金まで使い潰していた

一族揃って悲惨だ
大学なんか行けるわけないし
なにより家のことを姉夫婦にだけ
押し付けるわけにもいかない

こんなことがなければ
来年にでも東京で
パティシエになれたはずだ





おじさん
泳がないの？

いーよ俺は

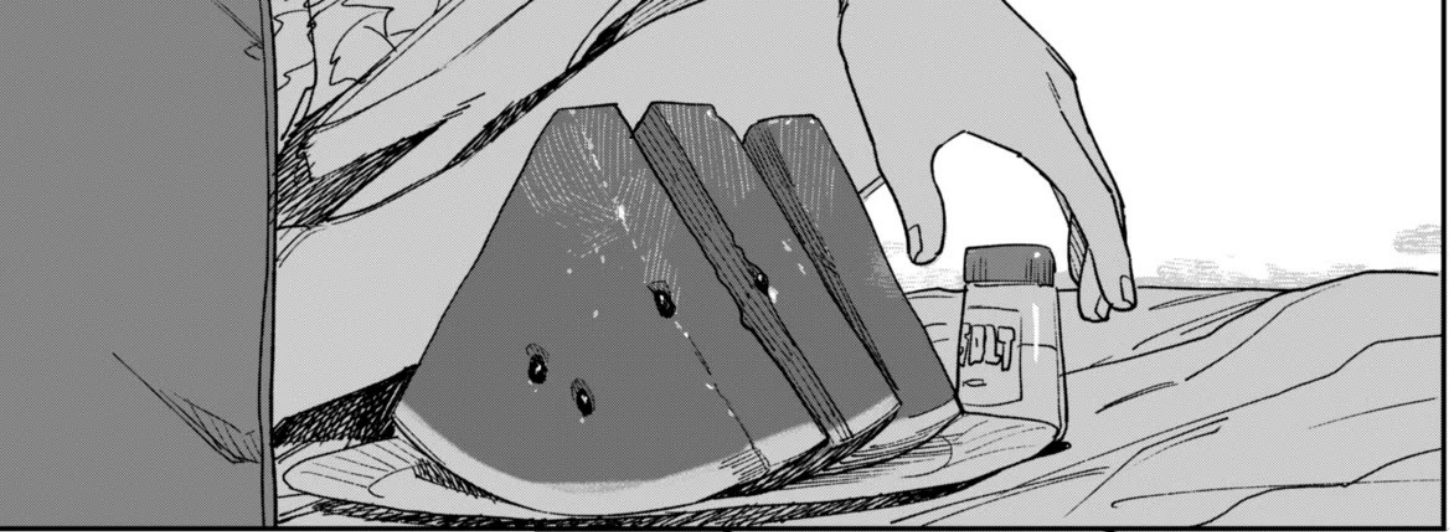


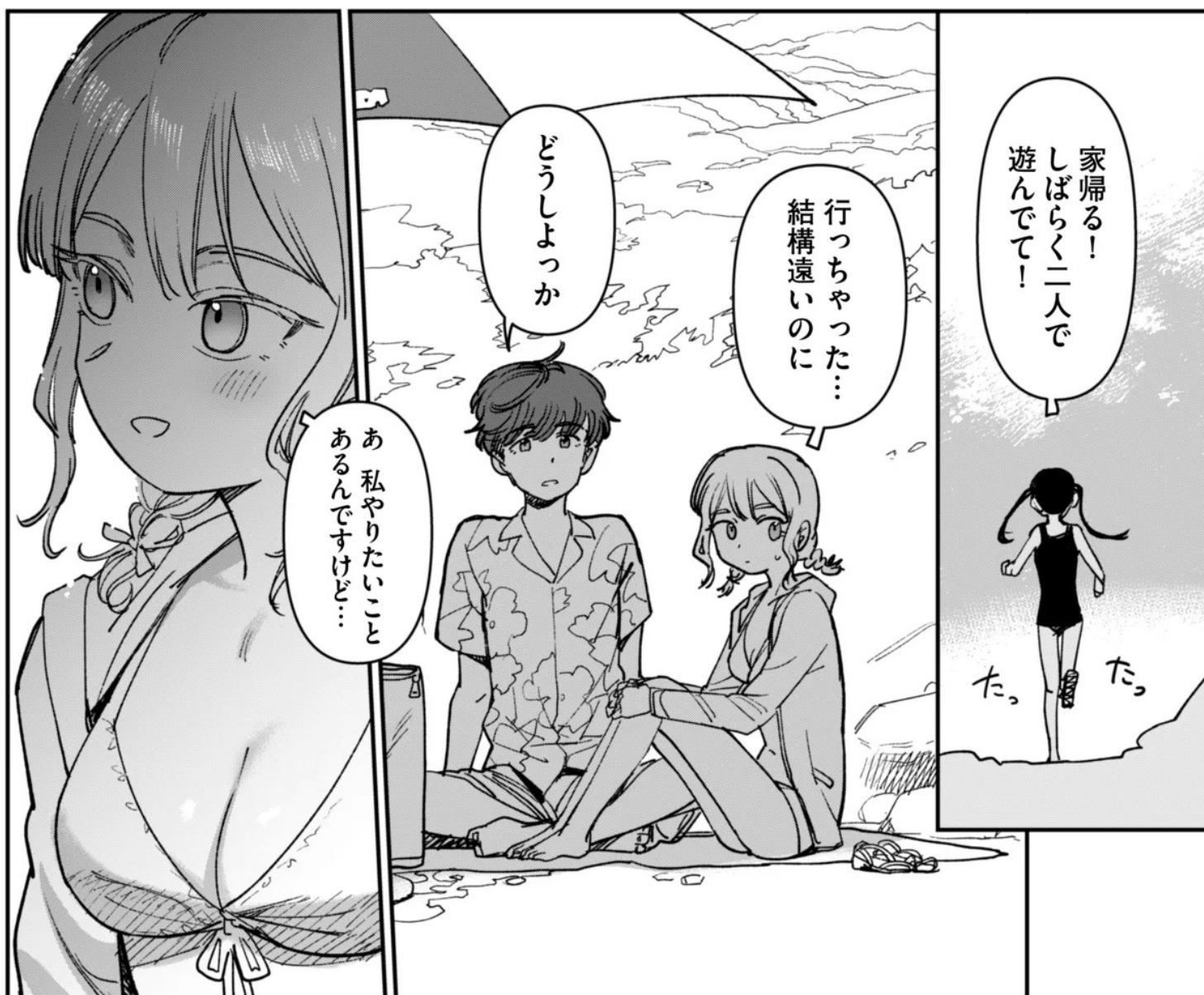
同じ年に
見えないな

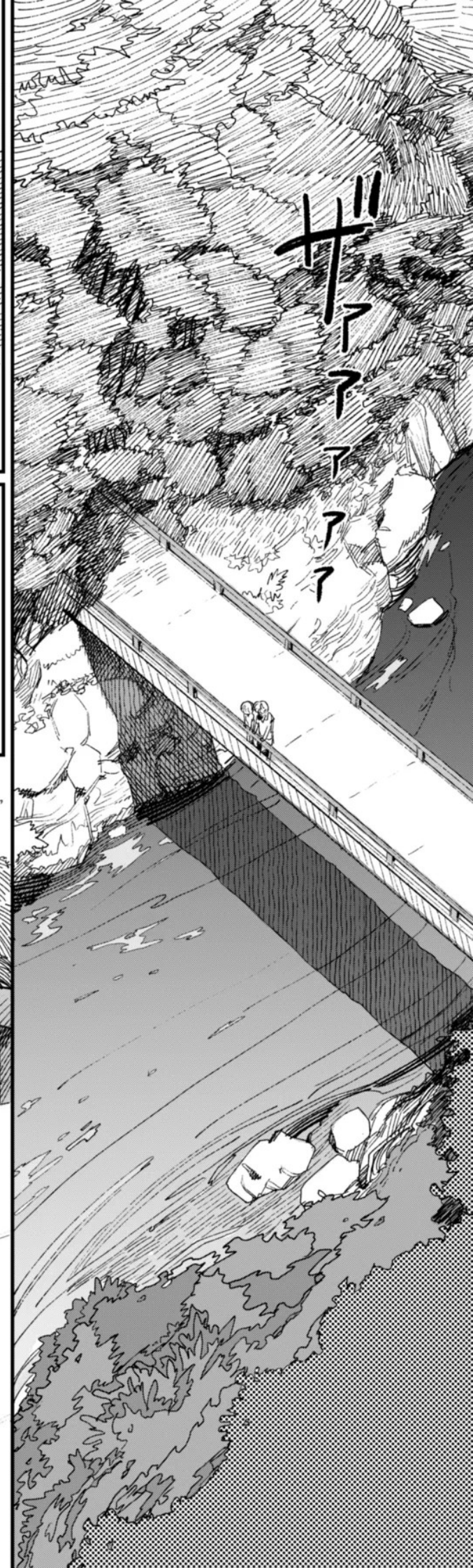
でけー

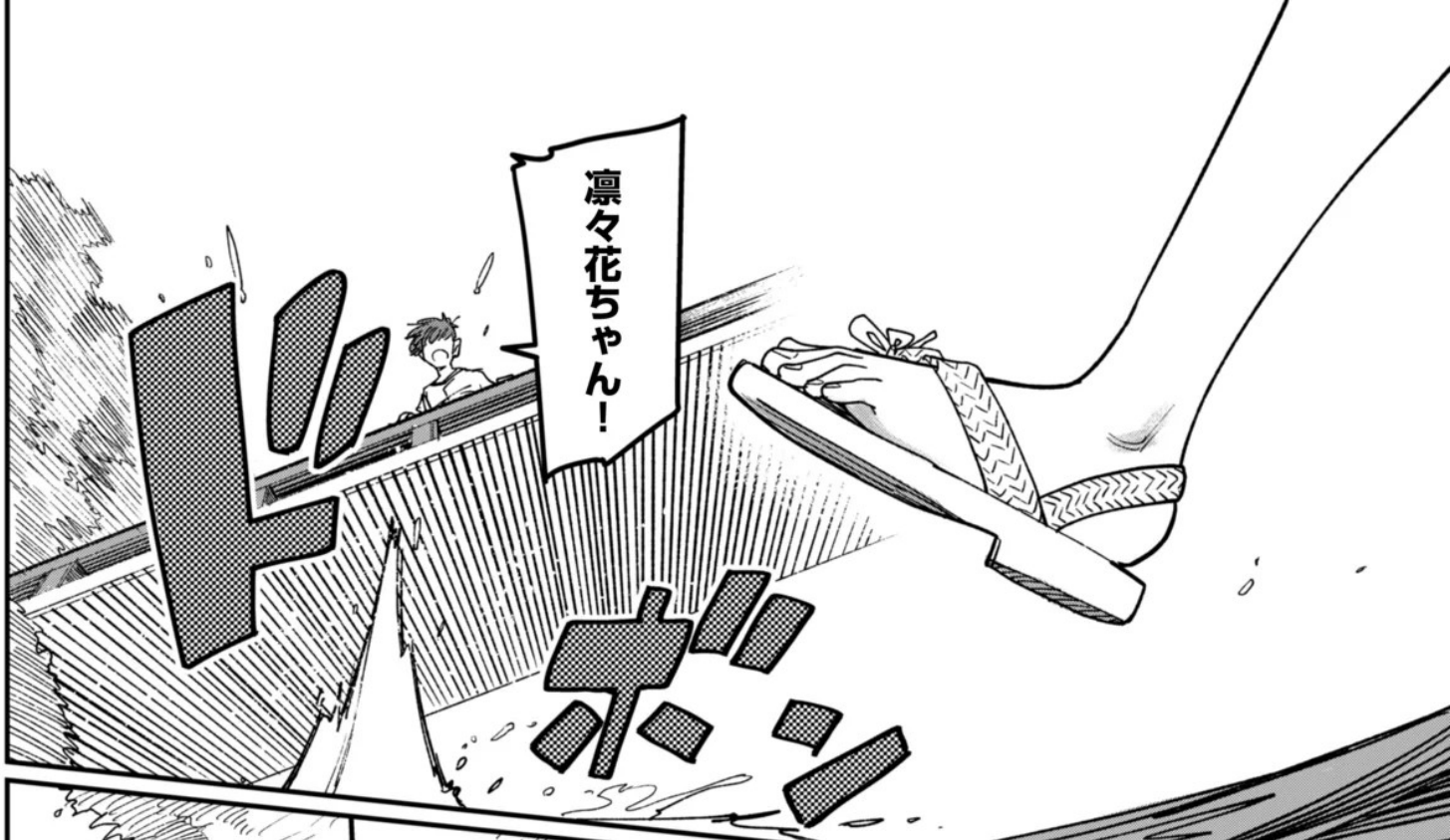


えく
気持ちいいのね









凛々花ちゃん！

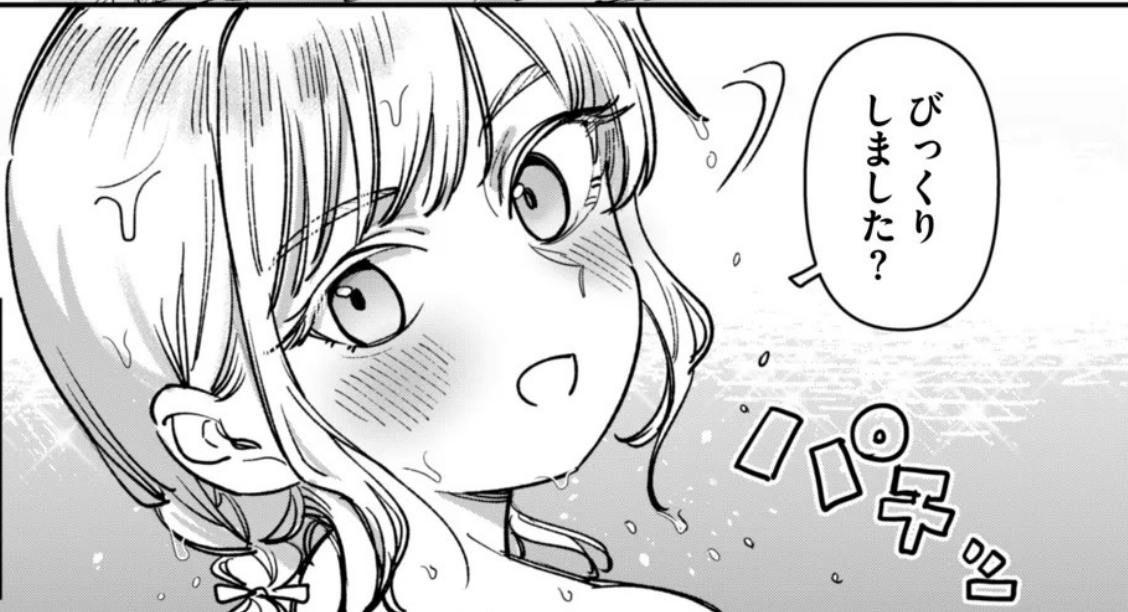
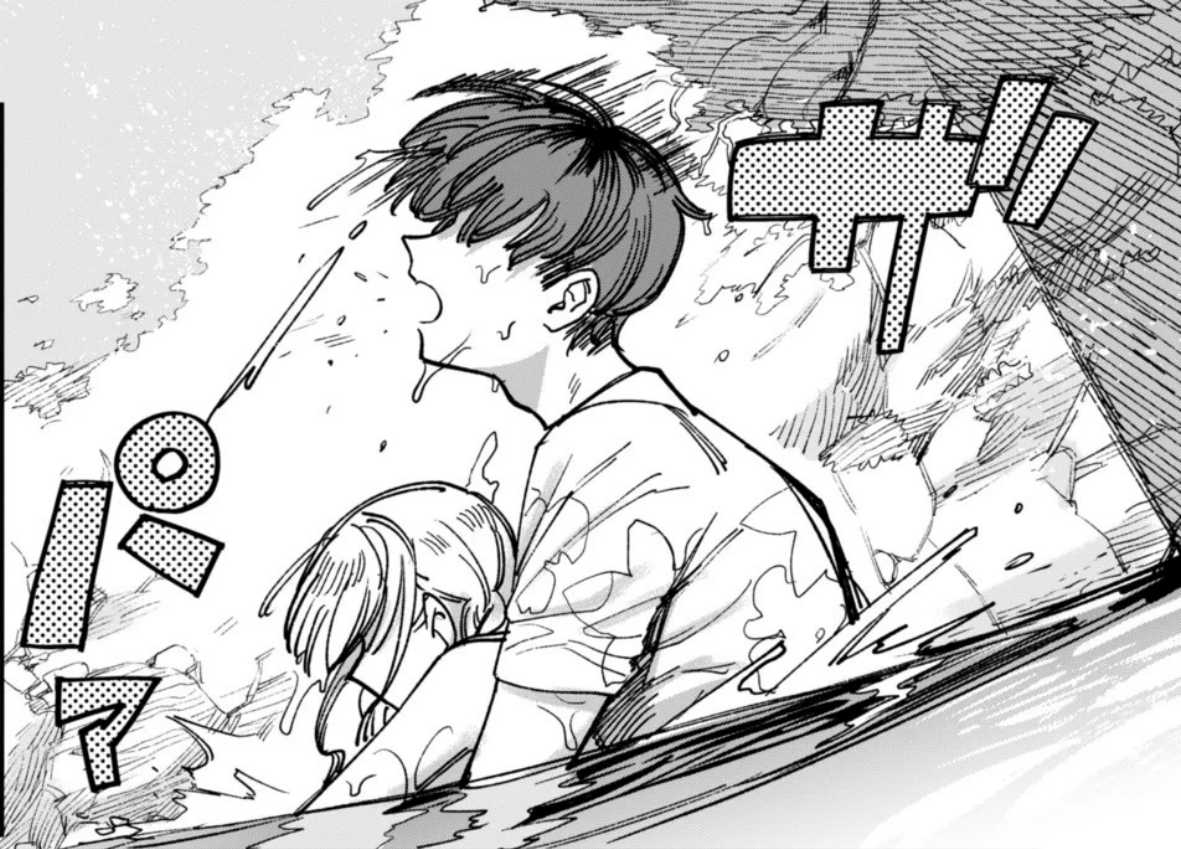
ゴッ

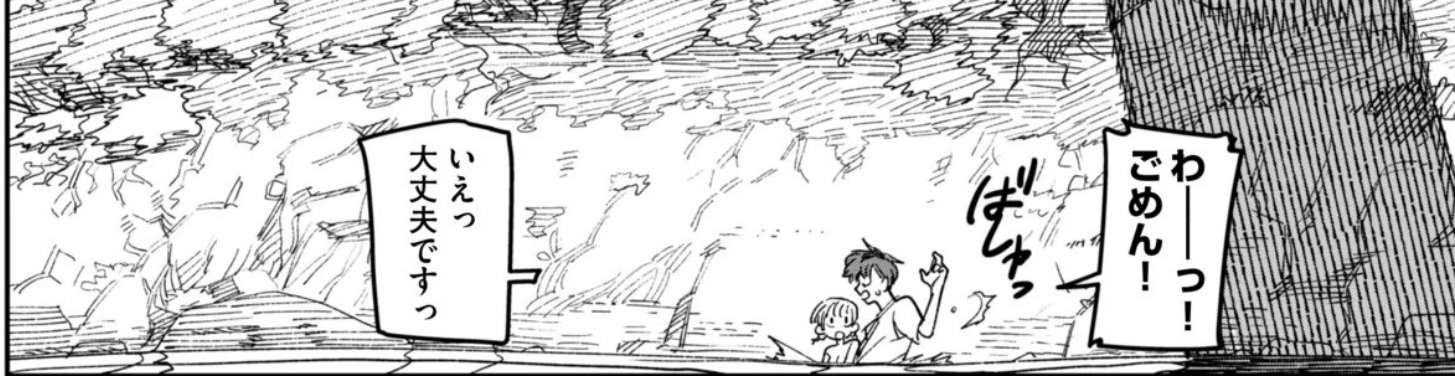


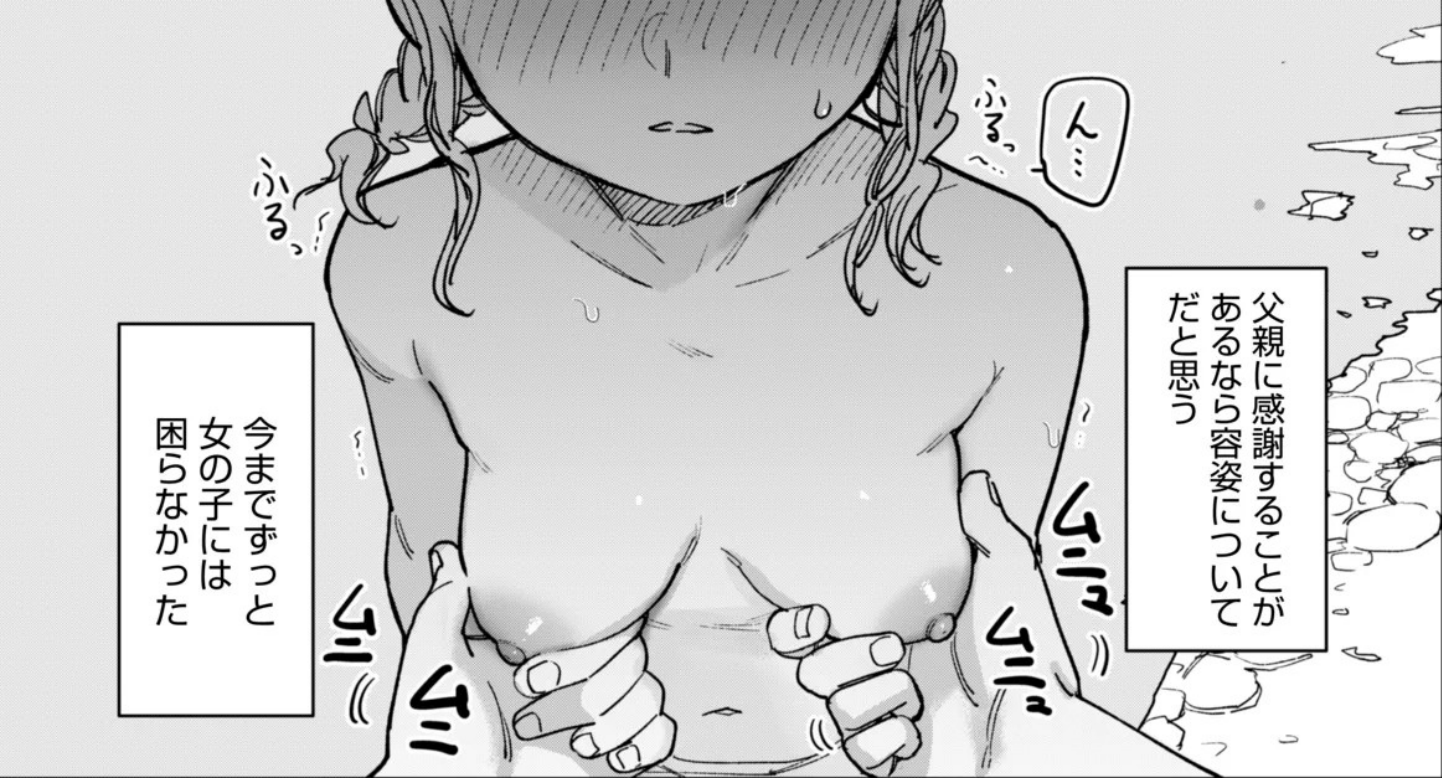
シャレに
ならないって！

おんおんおん

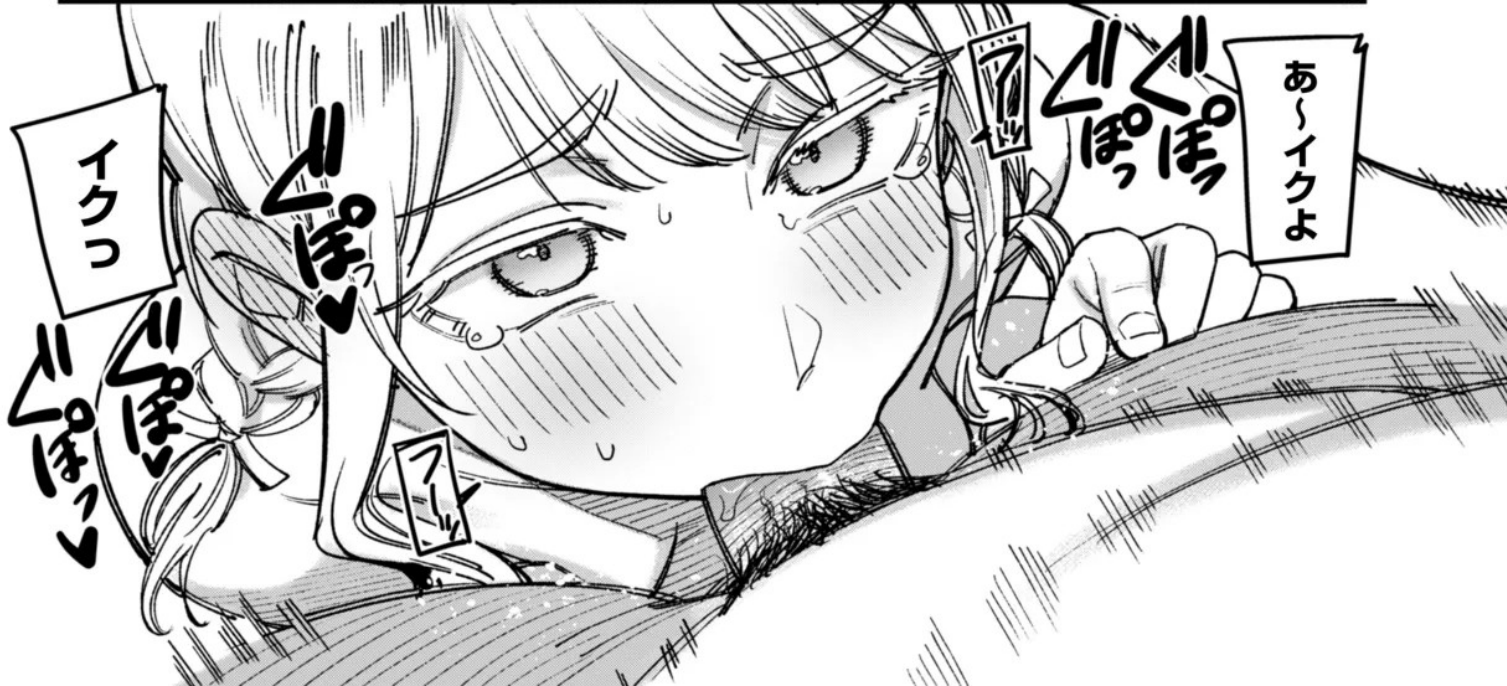
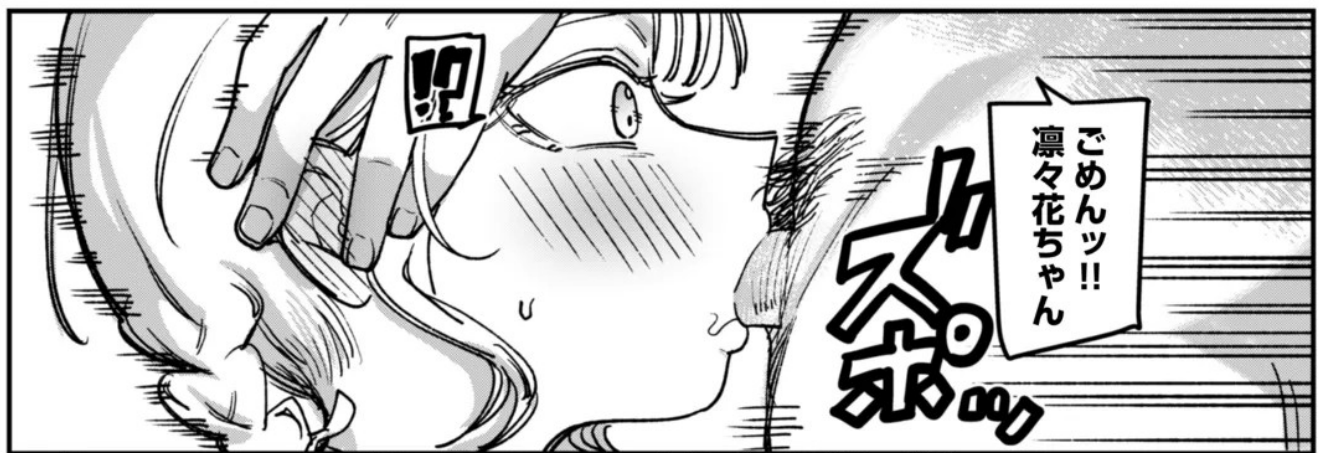
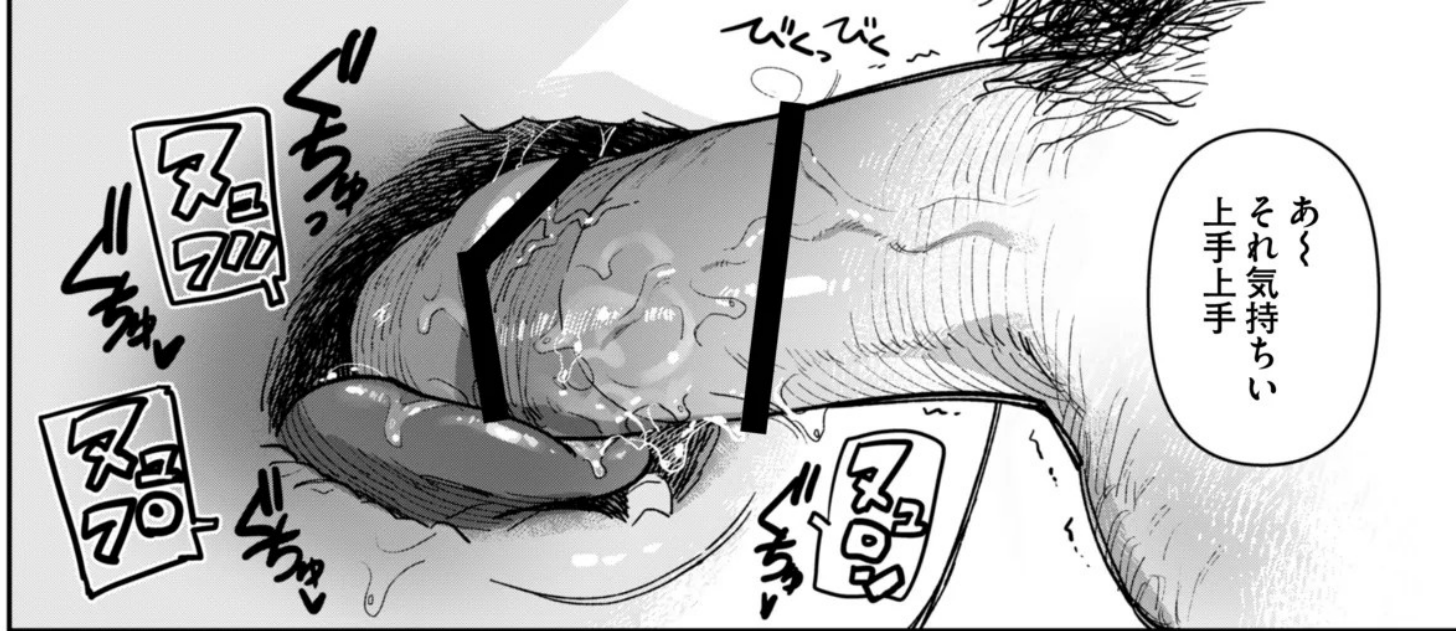














おじさーん
お風呂空いたよ

あいよ



すーちゃんとお兄さんって
兄妹みたいですね

そうかな？
まあ仲悪くはないかな

…いいなあ



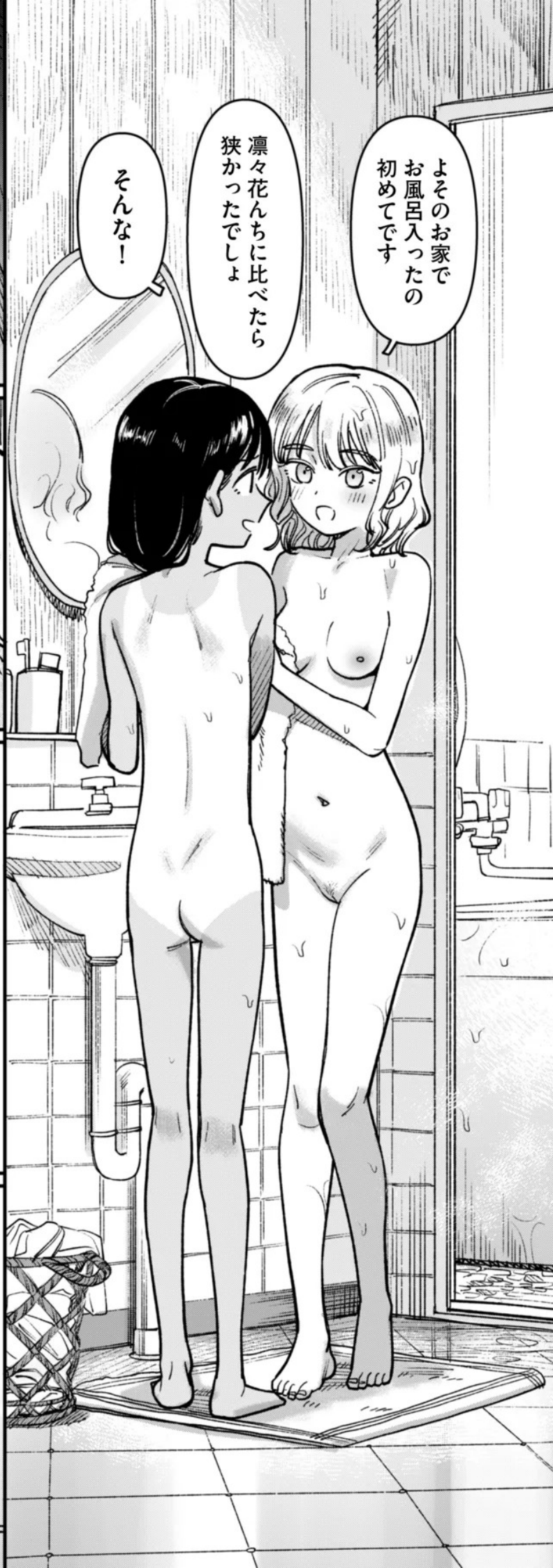
あれ
何で凛々花ちゃん
いのの？

今日お泊まり
言ってなかった？



お風呂
覗けなかったねー

バーカ



よそのお家で
お風呂入ったの
初めてです

凛々花んちに比べたら
狭かったでしょ

そんな！



立派な両親がいて
恵まれた環境で大切に
育てられてる

凛々花ちゃんは
聡明な子だ



また後ほど



この子の未来は
常に拓^{ひら}かれてる

探偵なんかに
収まらない
医者でも
弁護士でも
きつと
何にでもなれる



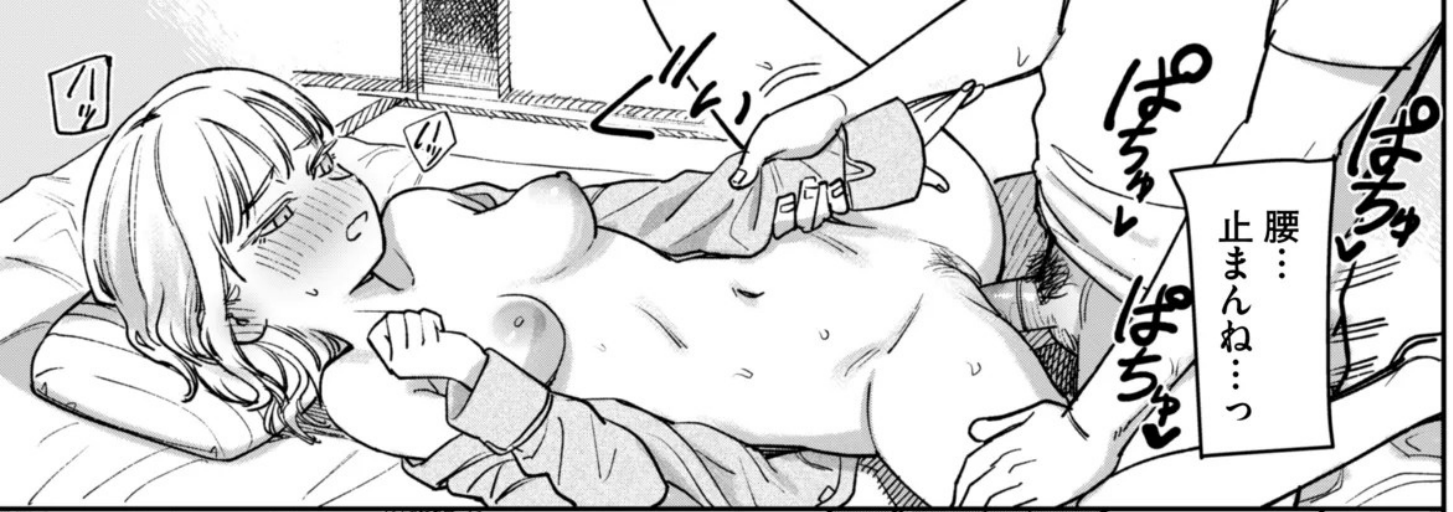
そんな子の
初めての男が俺なんて

すげー興奮する

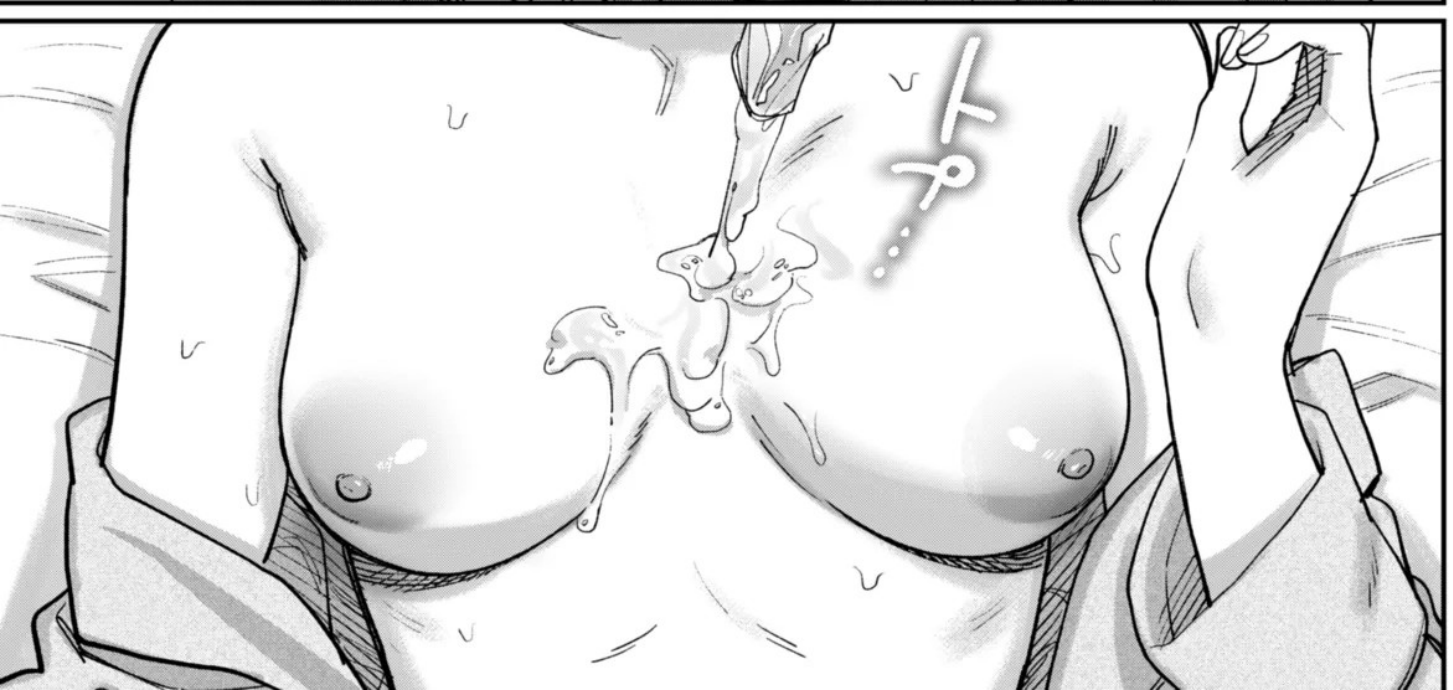
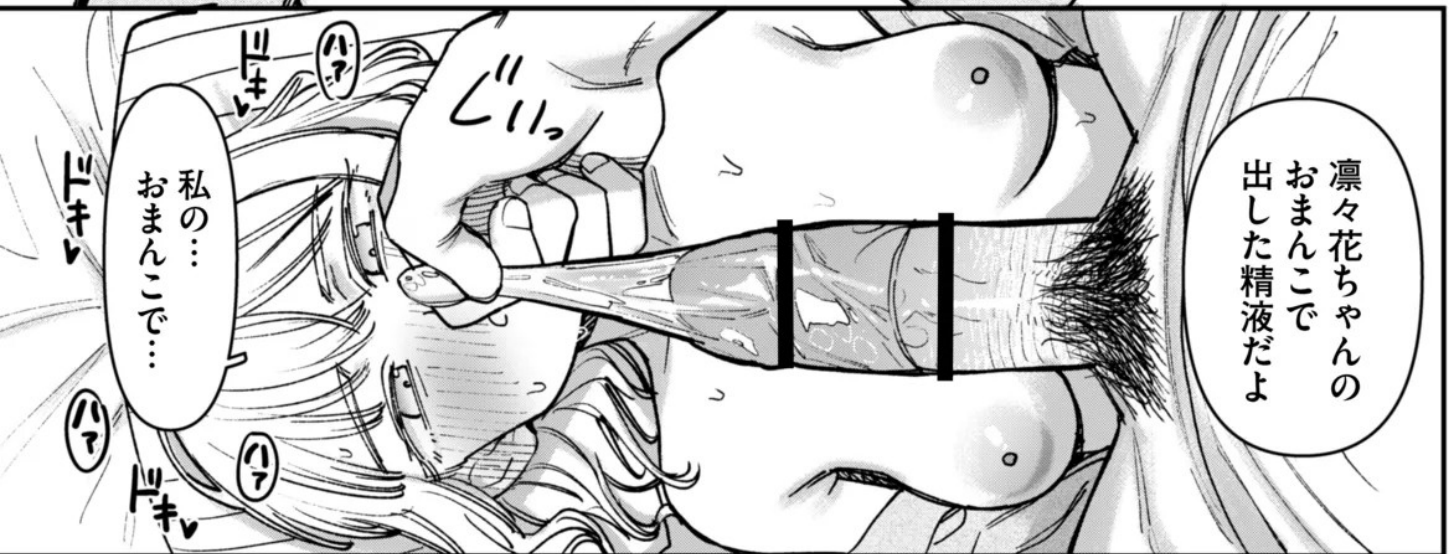


すご…
押し戻される











んっ

か
ぽ
♡



きれいにして



あーまた
勃^たってきた



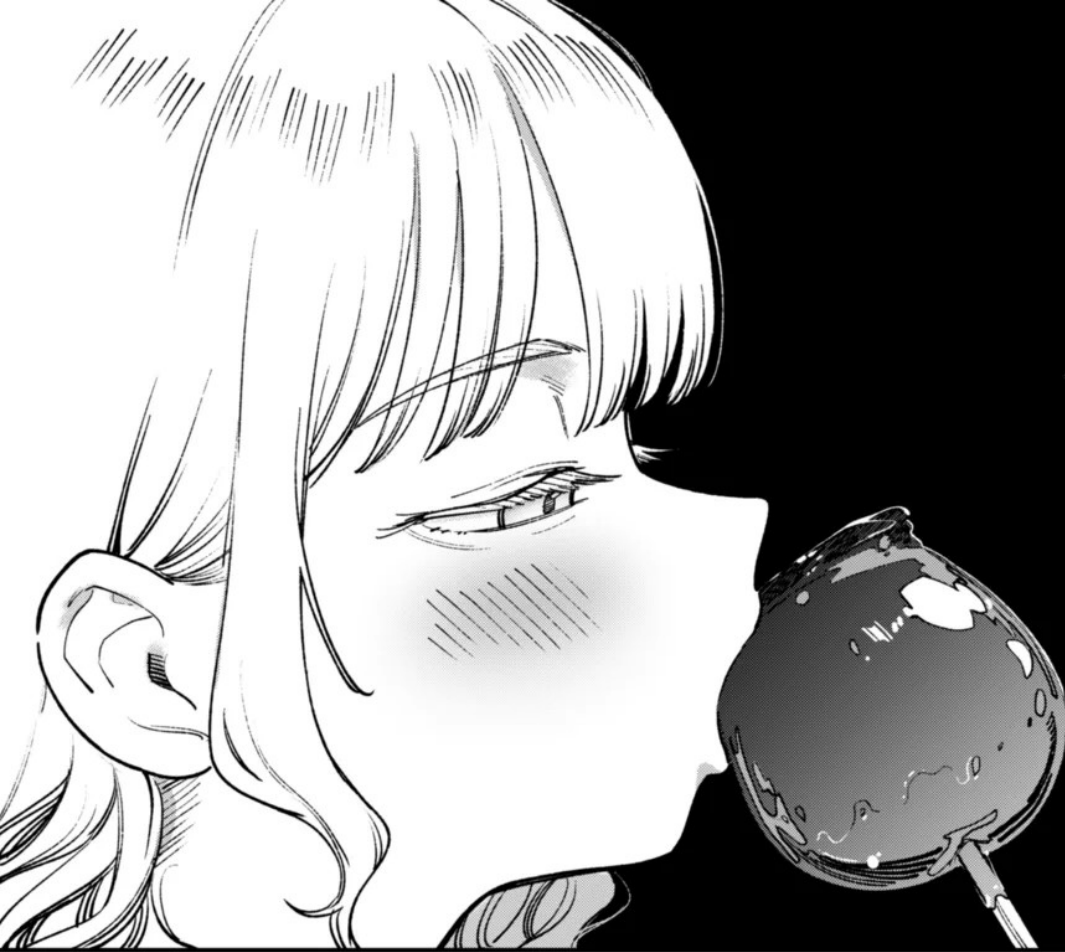
凜々花ちゃん
エロすぎ...

ん...ぐ

ぬ...ぐ

ぬ...ぐ

いいよそう
そのまま...





これくらいの幸せ
享受したっていいだろ

えいっ



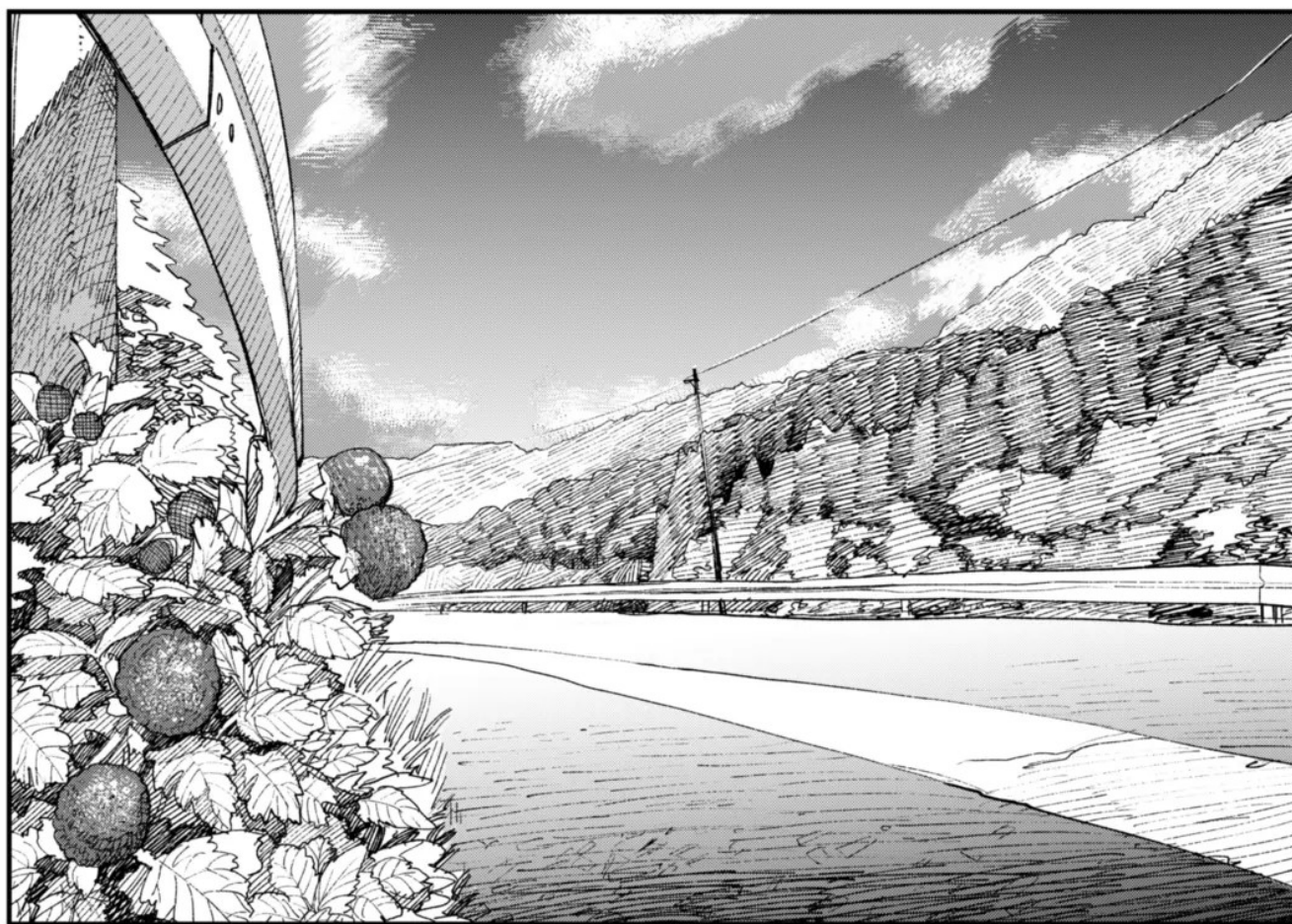
凜々花ちゃん
ここじゃ
まずいって

今まで散々な
人生だったん
だから



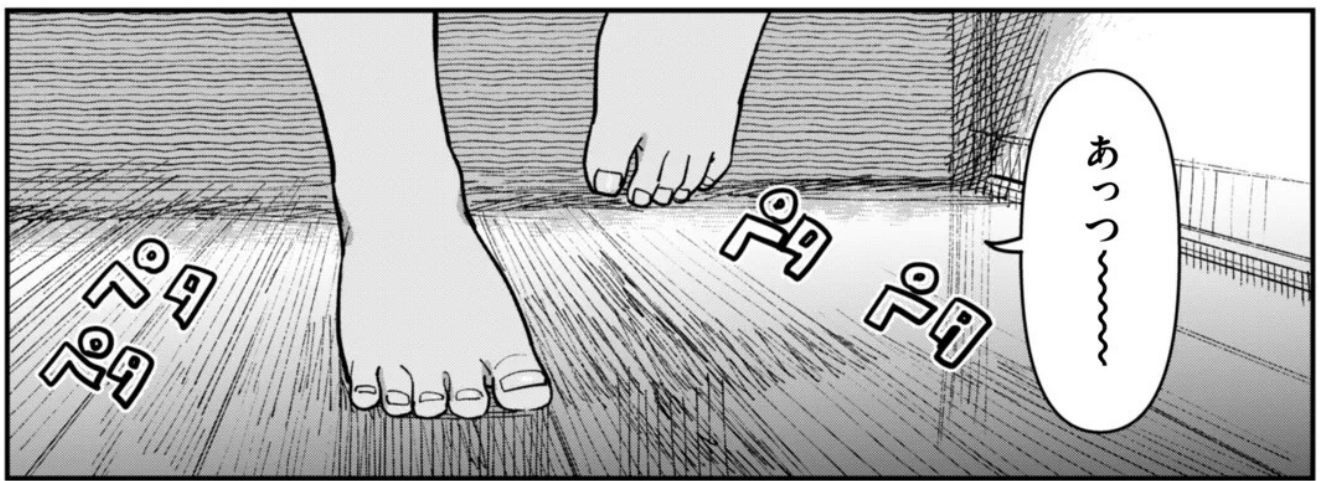
お兄さん お祭りなんか
抜け出しちゃいませんか？

——でも
何かを取りこぼした
気がする



二章

翠羽





勉強もできて
顔も可愛いし
ほんとお嬢様って
感じだよな

庭に葡萄^{ぶどう}とかもあってさ
庭師付き! すごいぞ!!

あー山の上の洋館
凛々花ちゃんの
家だったんだ

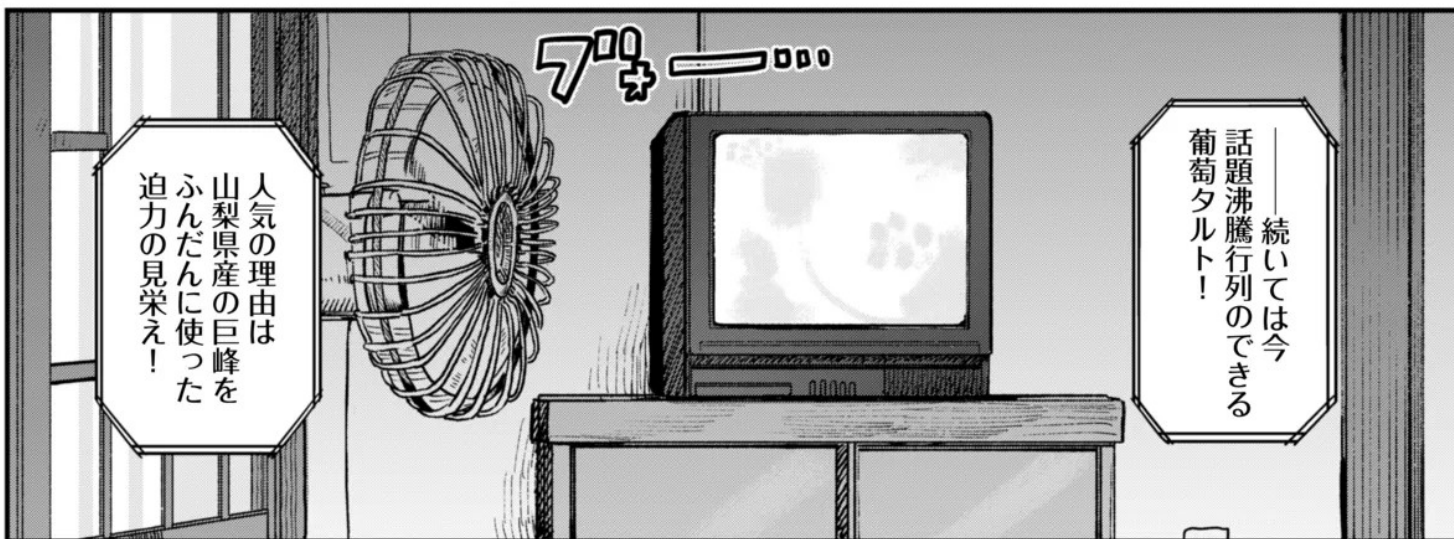
凛々花んち遊びに
行った時にさ
ドラマに出てきそうな
大っきい家でね
メイドさんいるの!
紅茶もらっちゃった

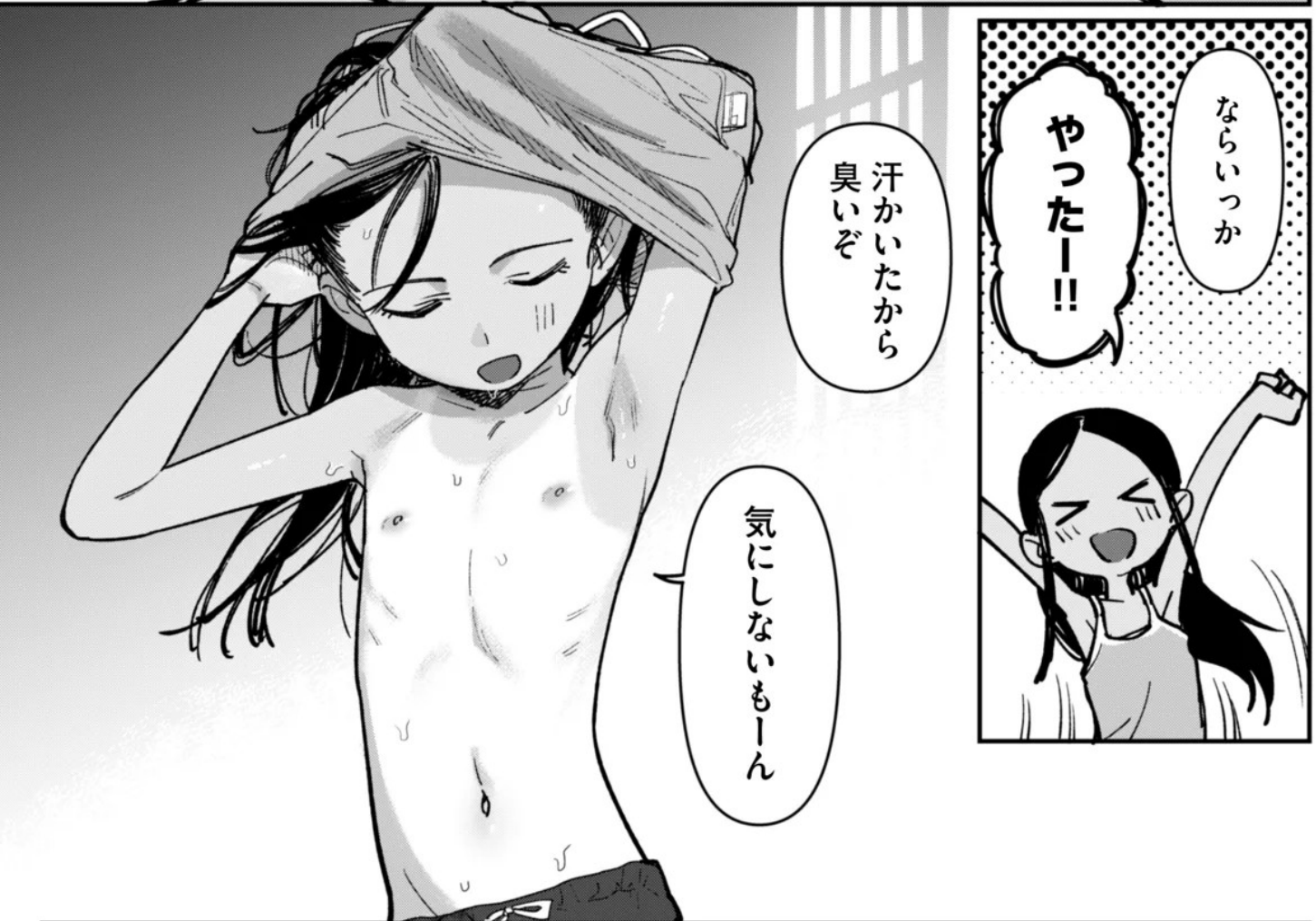
聞いて!



：翠羽^{すう}
暑いぞい

いっやだ〜





カチカチカチ……

気持ちいいーことできたら
何でもよくない？

カチカチカチ……



どうだろうなー

おっぱい揉んだら
大きくなるって
本当かな？

ぐに
ぐに

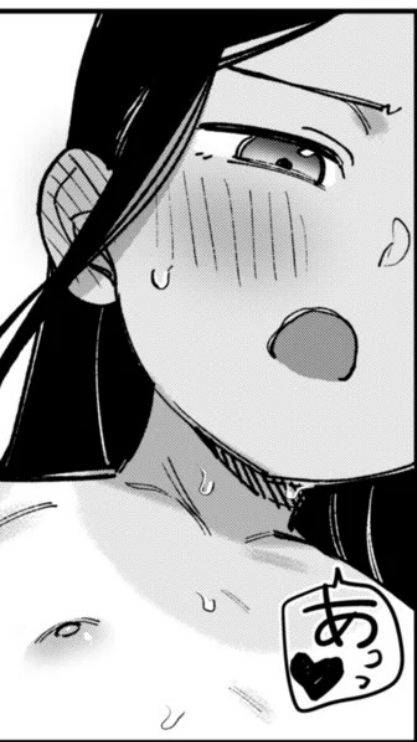


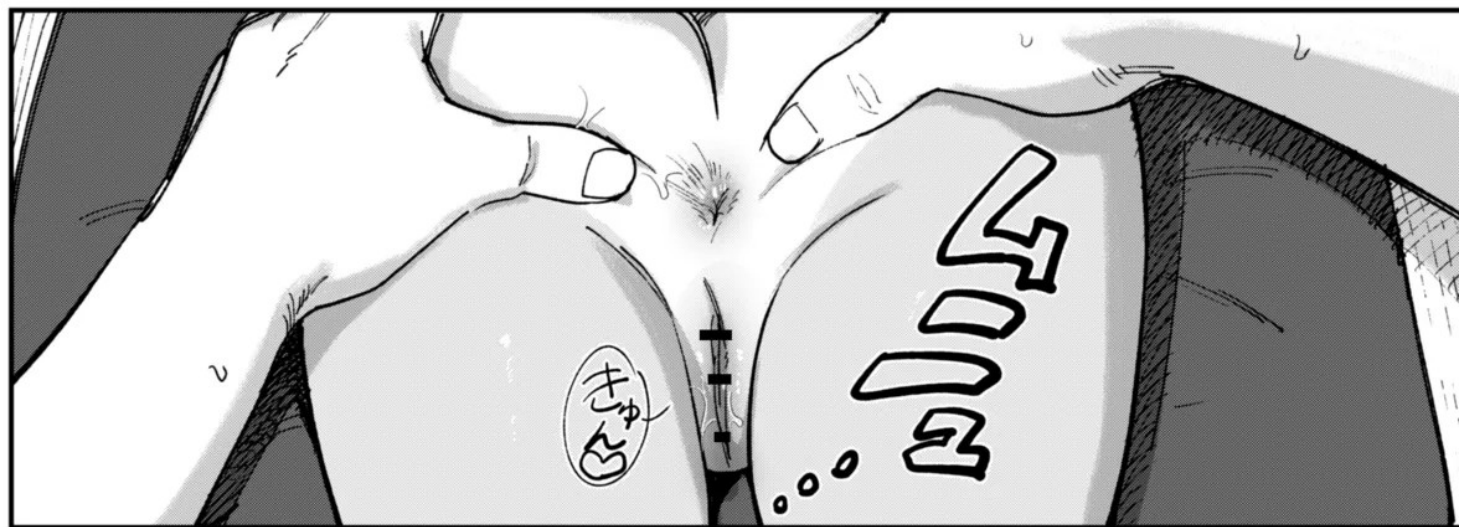
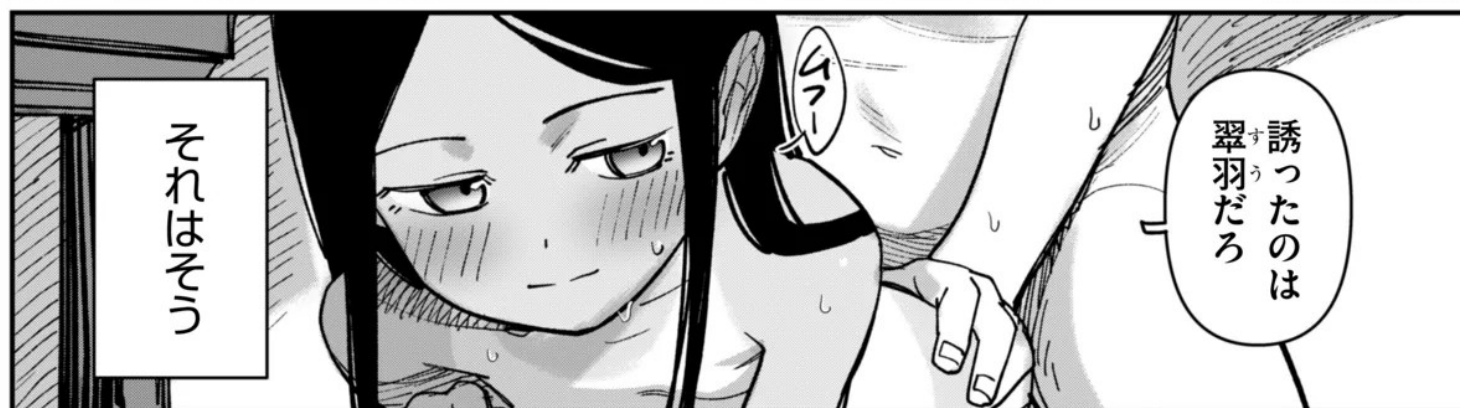
れろ

ひめ



ふた……







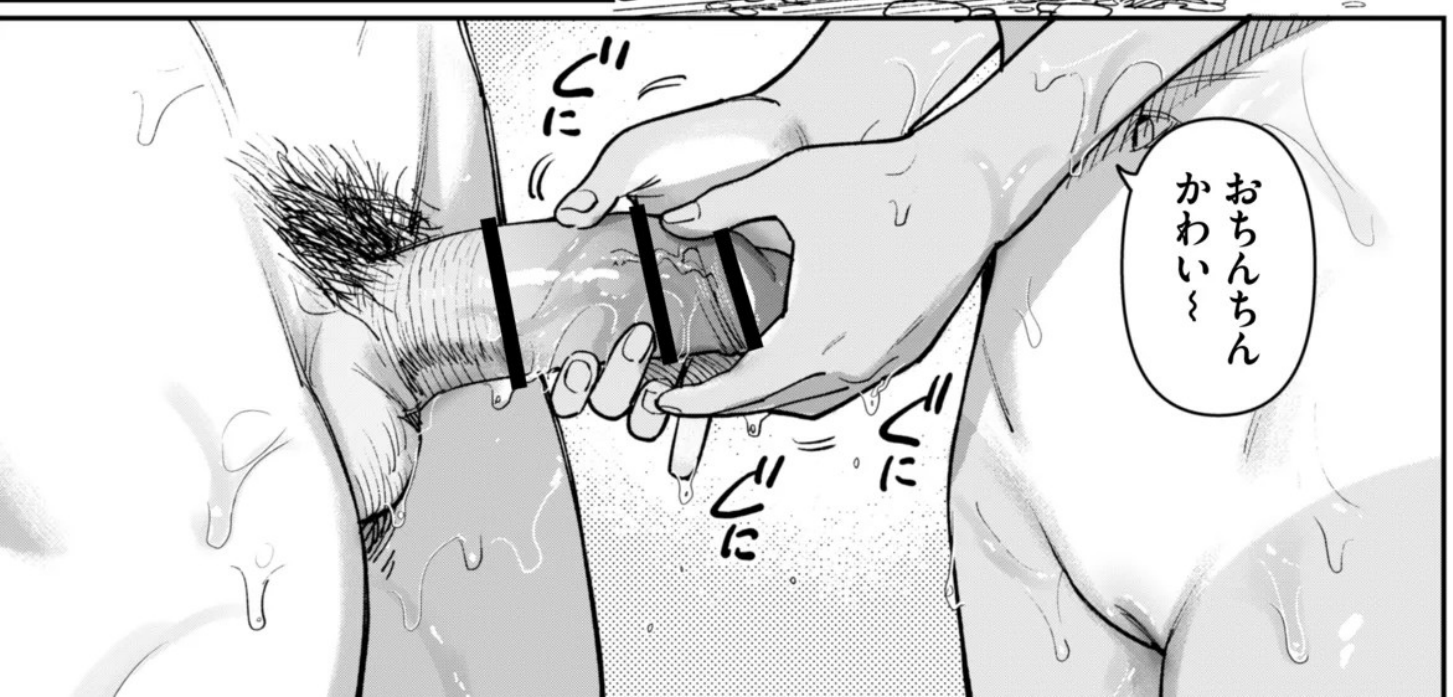
気持ちいい?

これっずっと
奥あたって...

...俺も
気持ちいいよ...

気持ちいいっ







おっ

なんか硬くなってる
んだけど〜？

「ヤン」



ここ声響くね

翠羽^{すう}だって
濡れてるだろ

ひゃっ!!

スル

あたしの身体に
興奮してるんだ〜

声
抑えろよ





翠羽...っ
声!

あ♡やっぱ無理いっ

たん

たん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

あー

あー

あー

あー

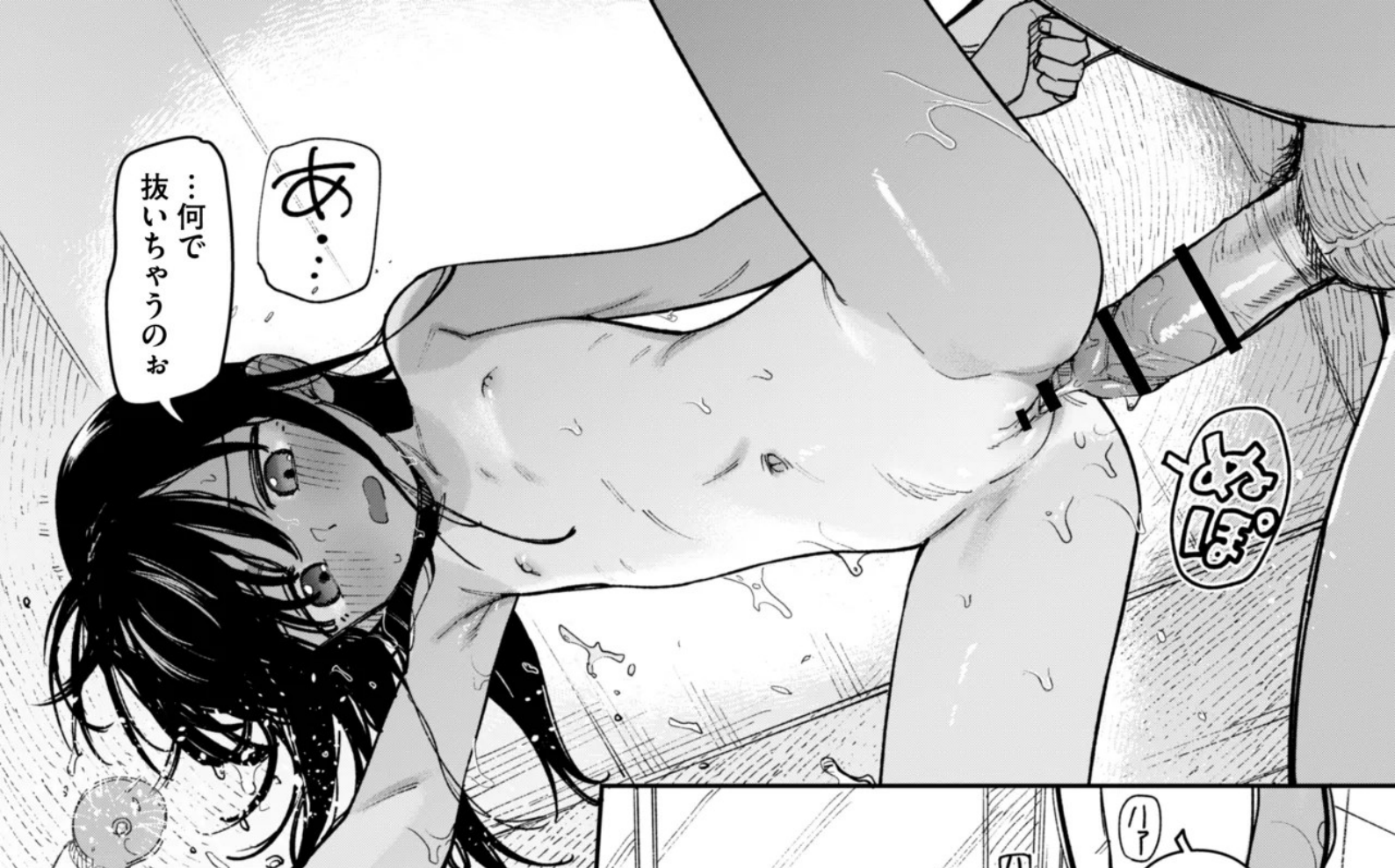
あー

あー

あー

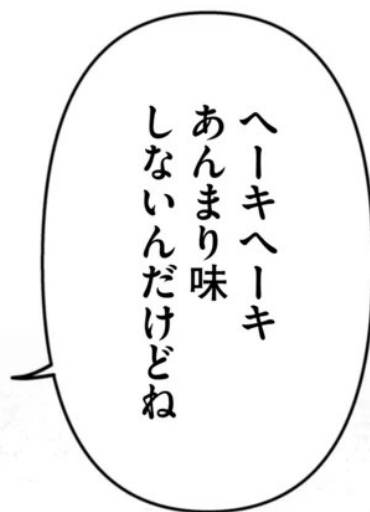
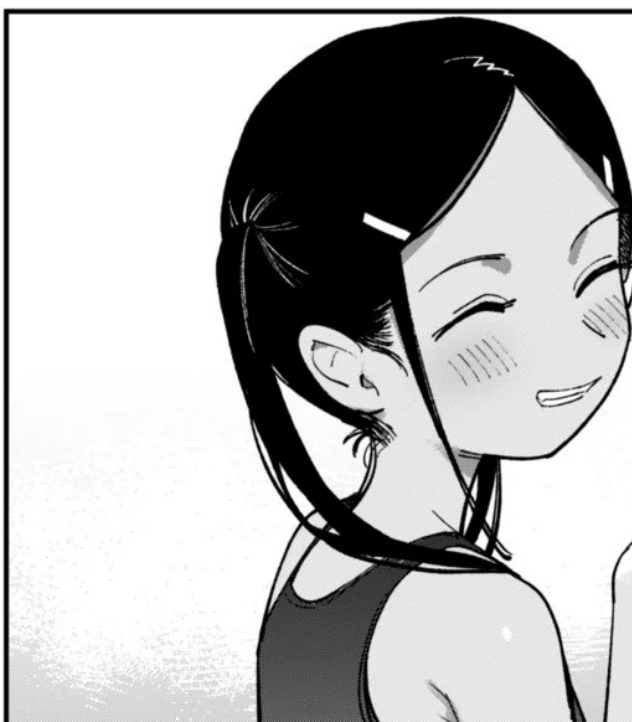
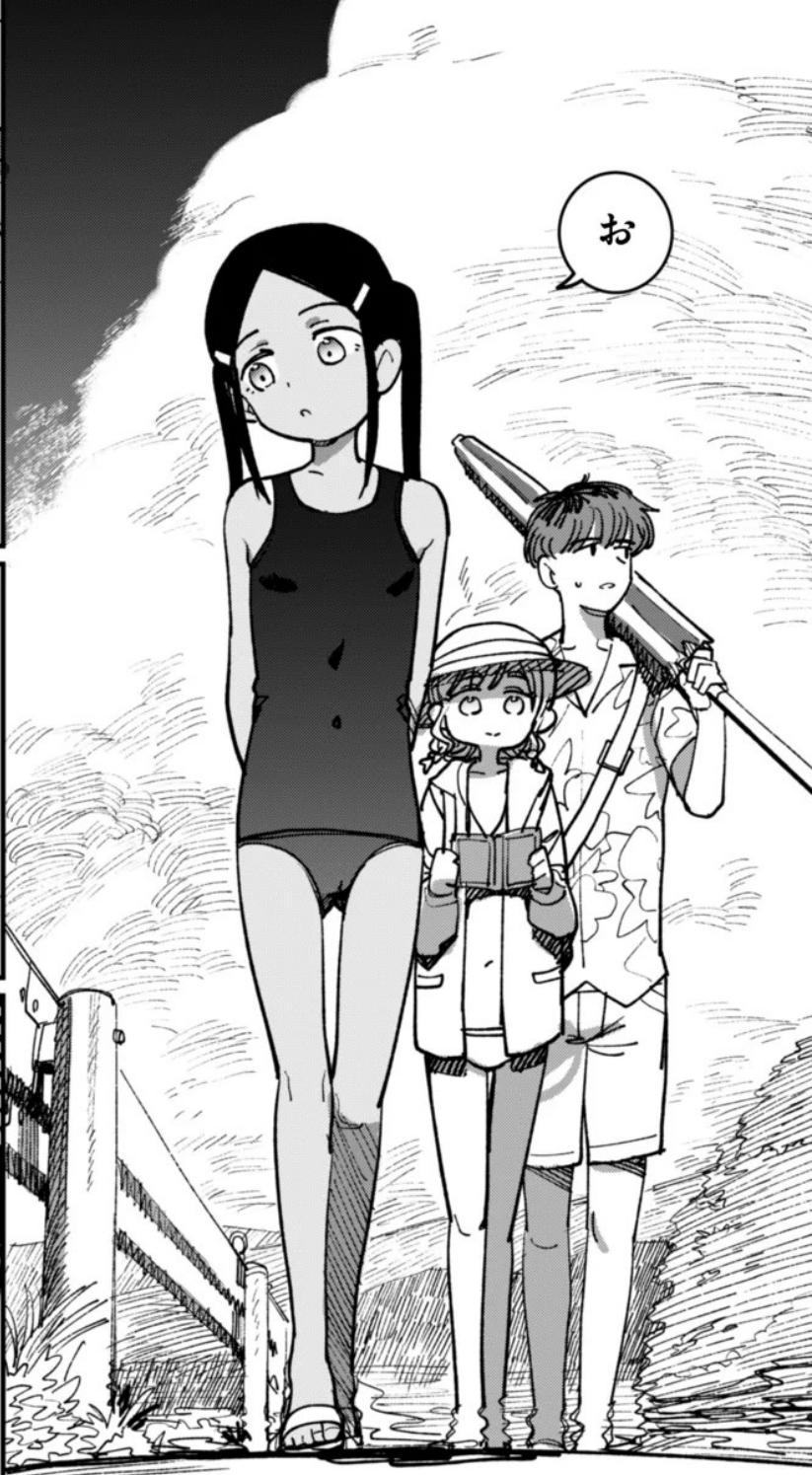
あー

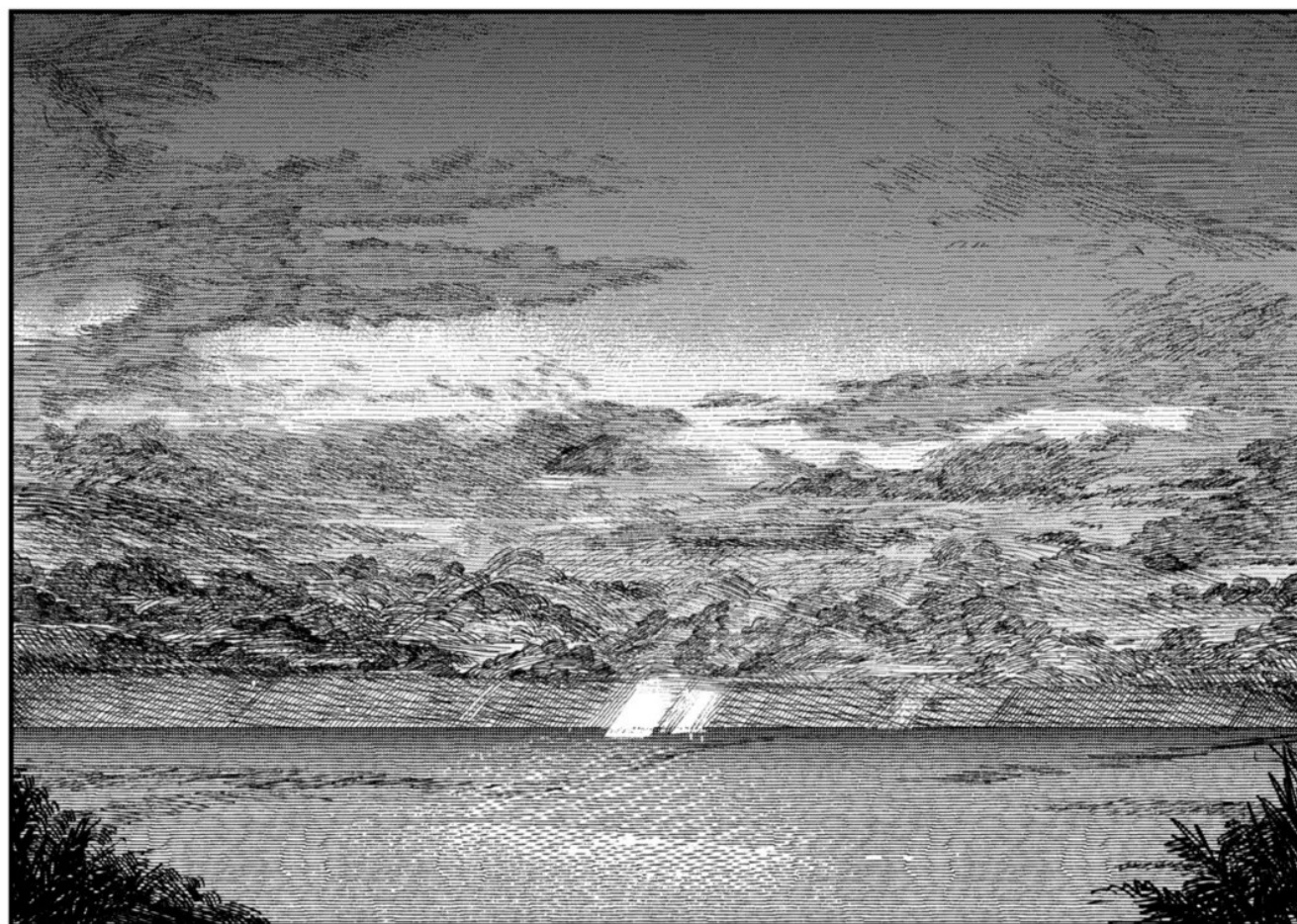






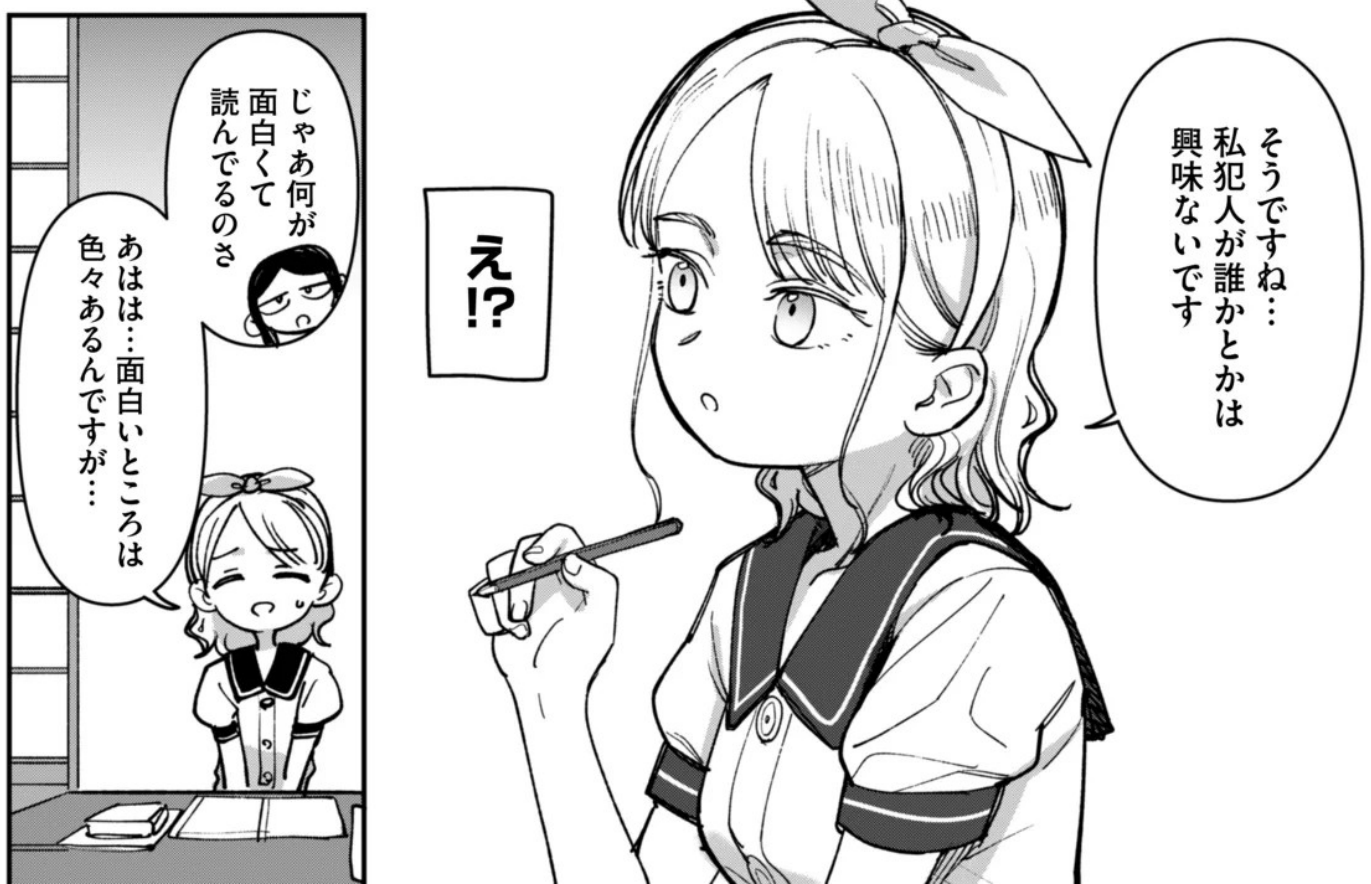






三章

凜々花





犯人がどうしても
隠したかった秘密を
探偵が白日の下に晒す…

それって
残酷で暴力的で…
魅力的じゃないでか？

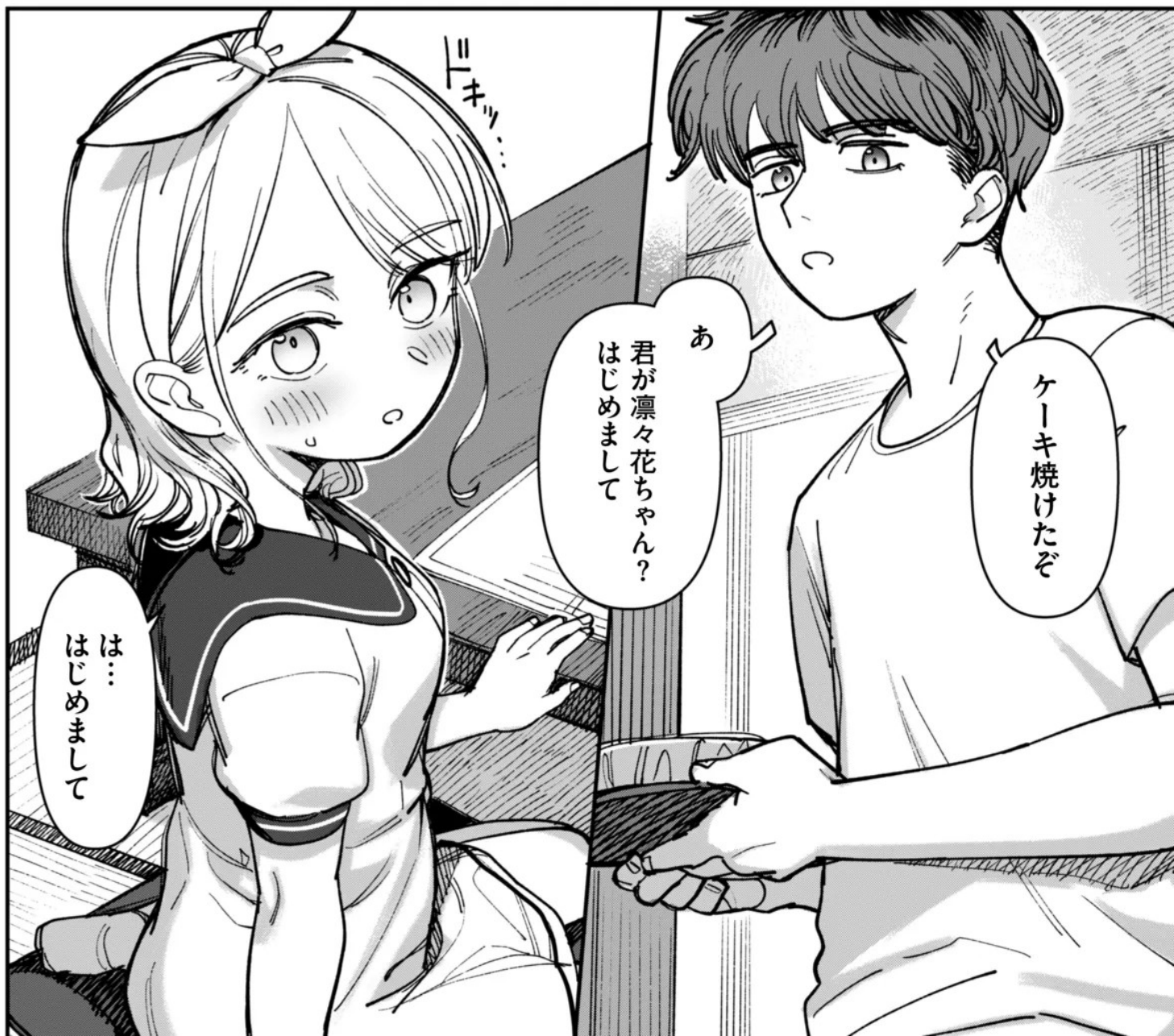
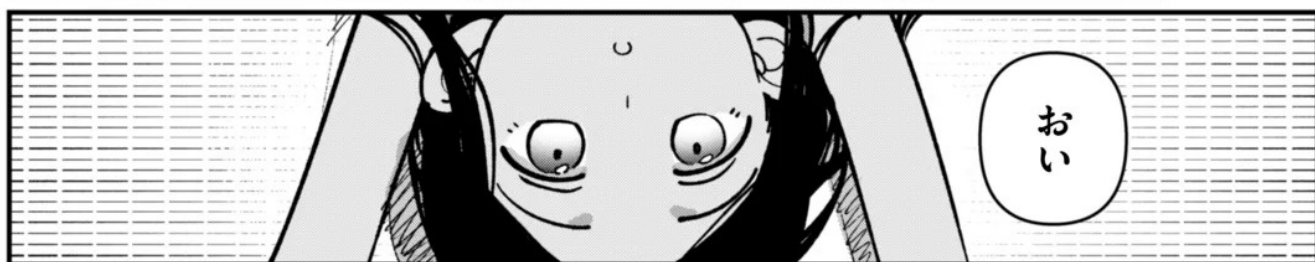
残酷？
悪いことしたんだから
当然でしょ？

良い悪いは置いて
犯人と被害者には
殺人を通して
絆が生まれるんです

それは犯人の
好むと好まざるとに
関わらず…

そういう絶対的で
不可逆な絆に
惹かれるんです







伝えてねえの？

存在は伝えた



いいよ
いいよ

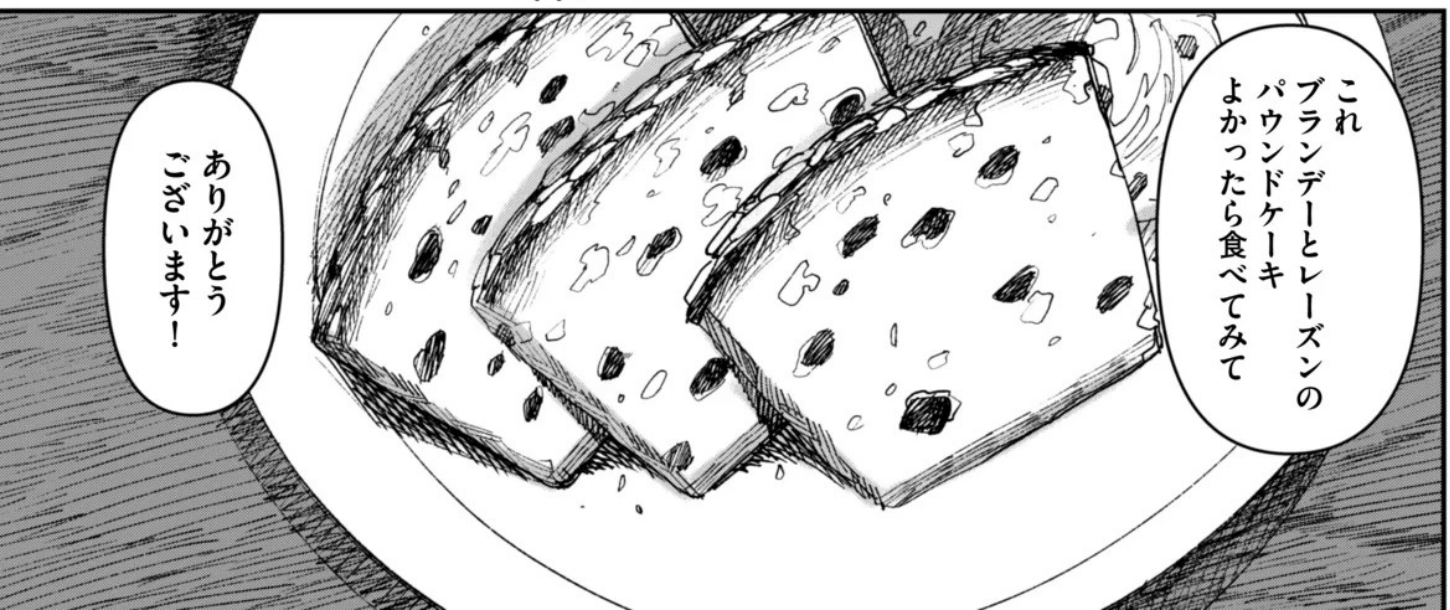
すみません！
こんな若い方だと
思わなくて



叔父

おじ!?

ええと…
すーちゃんの…



これ
ブランドーとレーズンの
パウンドケーキ
よかったら食べてみて

ありがとう
ございます！



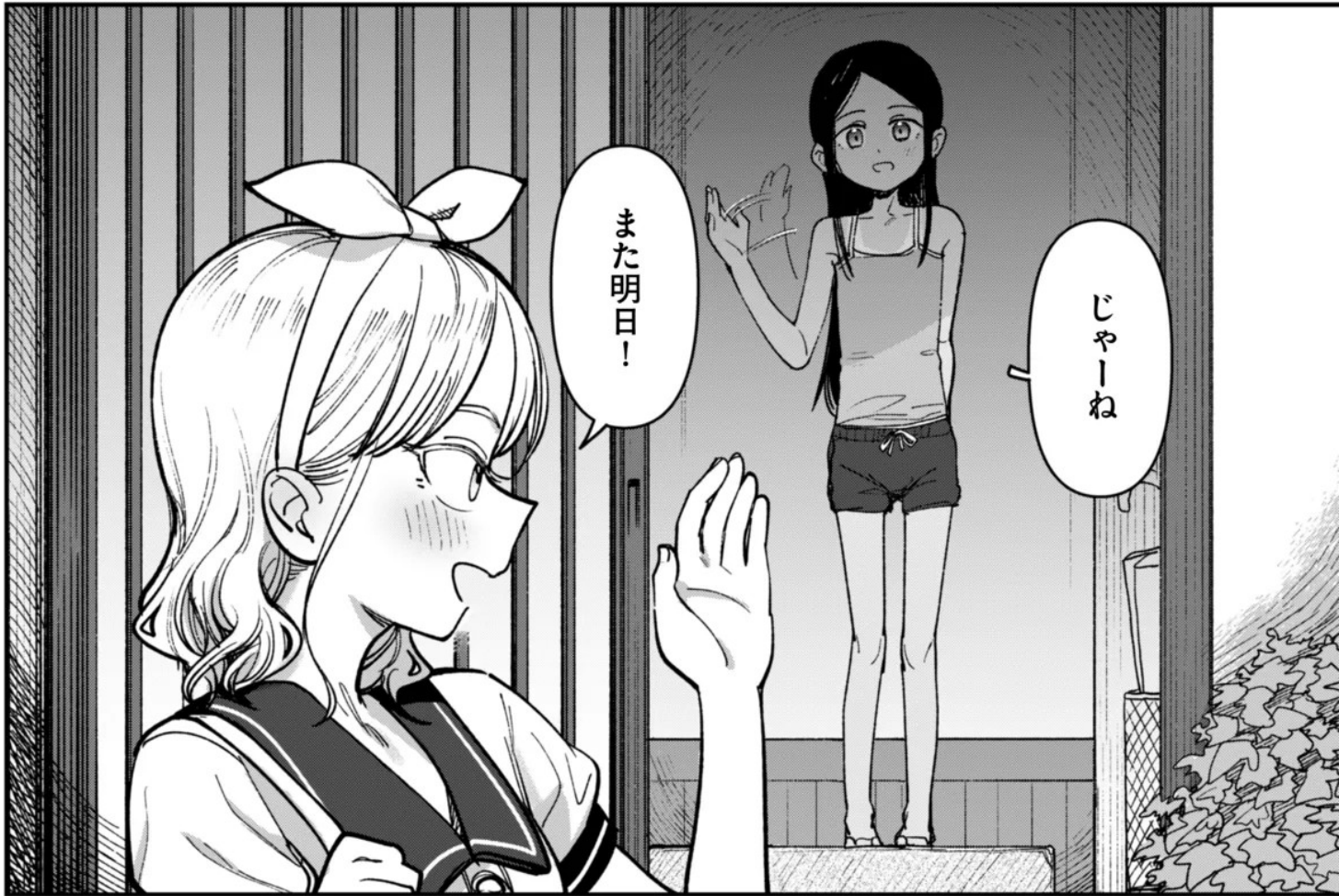




川行くときは
濡れても
いいやつに
しなよ

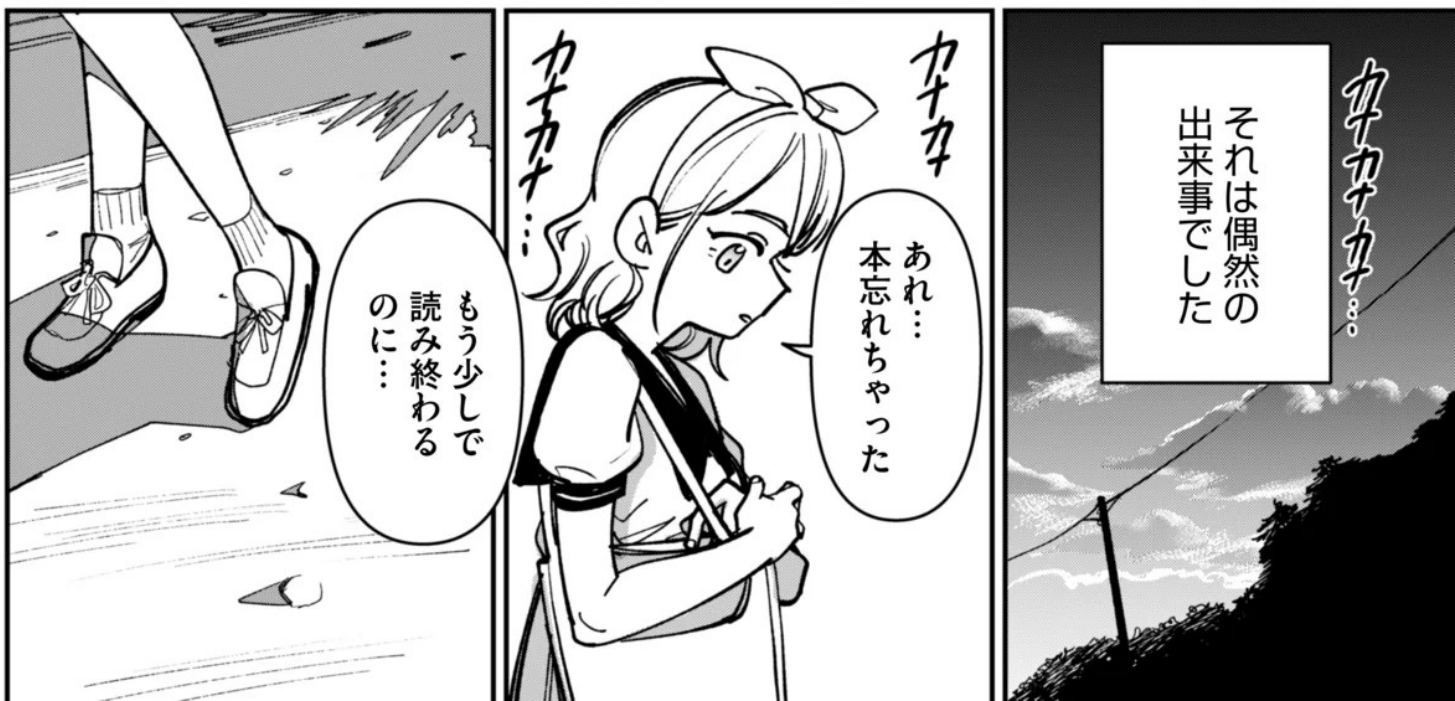
はい！
実はもう
水着と一緒に
買ってあるんです

ぎゅ



じゃーね

また明日！



カチカチ...

それは偶然の
出来事でした

あれ...
本忘れちゃった

もう少しで
読み終わる
のに...

カチカチ...

カチカチ

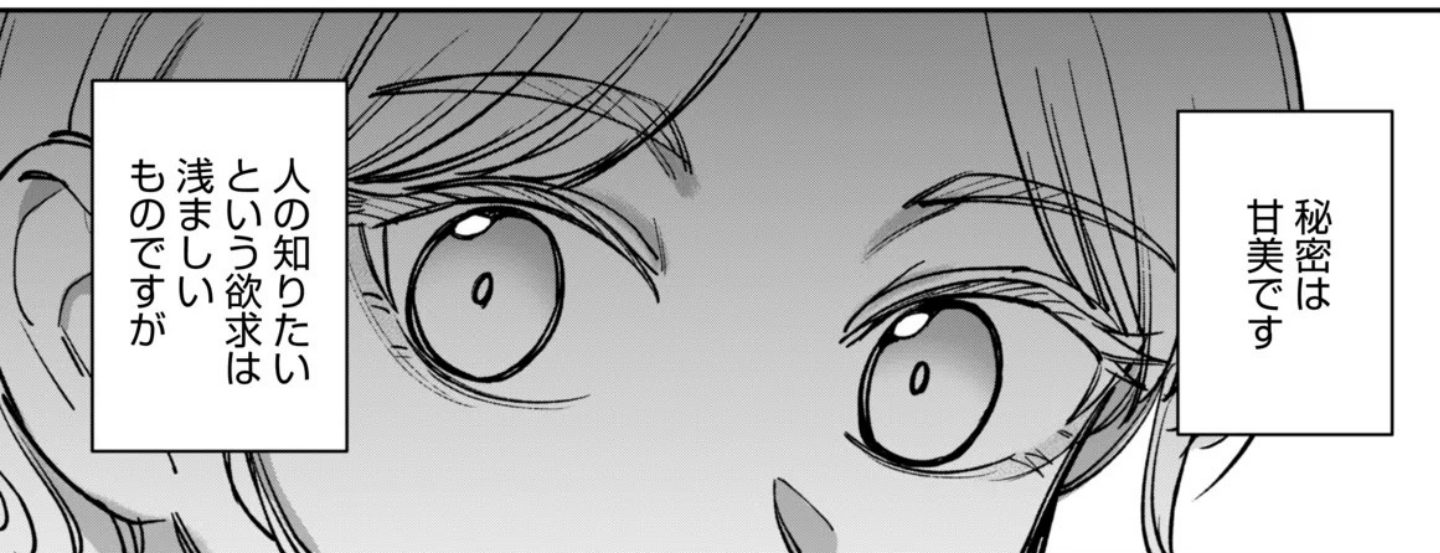


カナカナカナ...

すーちゃん



今思うときっと
運命だったのかも
しれません



秘密は
甘美です

人の知りたい
という欲求は
浅ましい
ものです



止めることなど
到底できません

あ
カナカナカナカナ

あ
カナカナカナカナ



家の人はいないの？



パパもママも
お忙しい方達なので
元々あんまり
家に居ないんです



はい！

今日はみんな
出払ってるんです





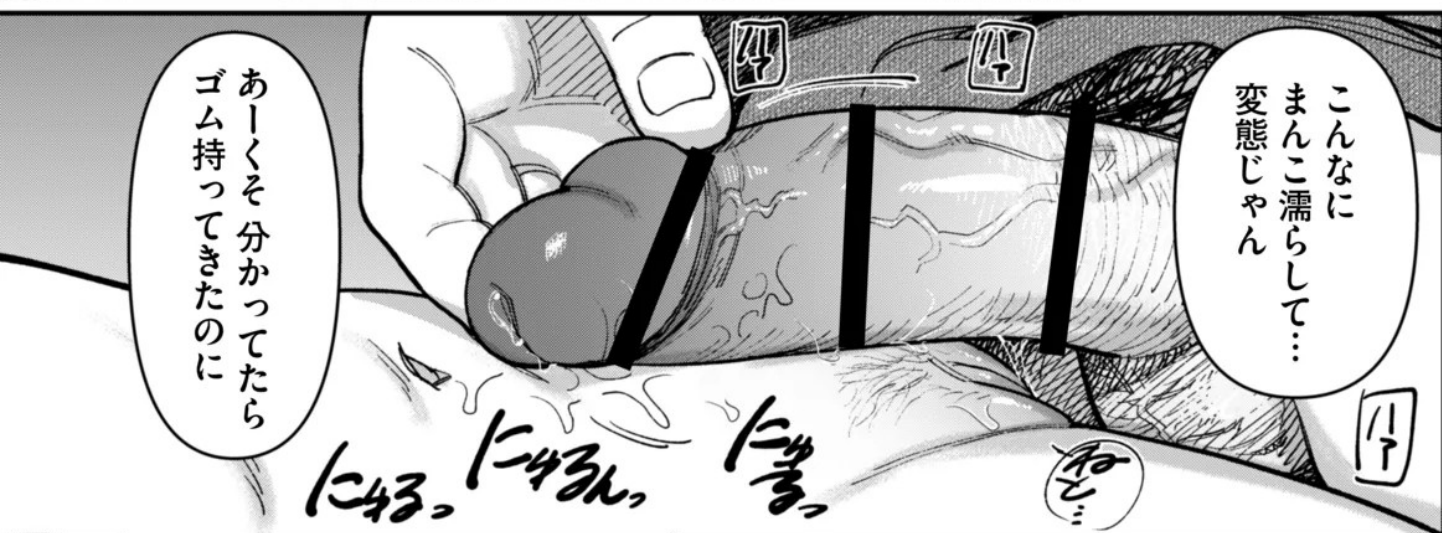
お兄さんが欲しくて
たまらないんです



凛々花ちゃん！

きゅあ♡

おっ



こんなに
まんこ濡らして…
変態じゃん

あーくそ分かったら
ゴム持ってきたのに

にゅん、にゅん、にゅん



そんなもの
興が冷めてしまいます







へえ…凛々花ちゃん
そんなことも言えるんだ



あはっ♡そんなに腰振って…
気持ちよさそうなお兄さん

可愛いです

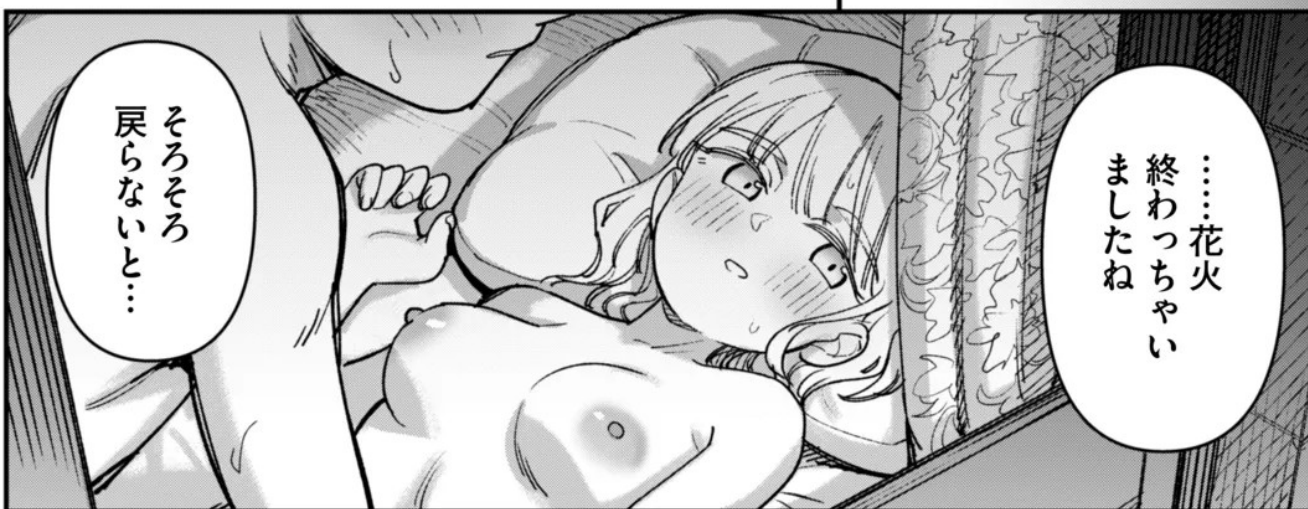
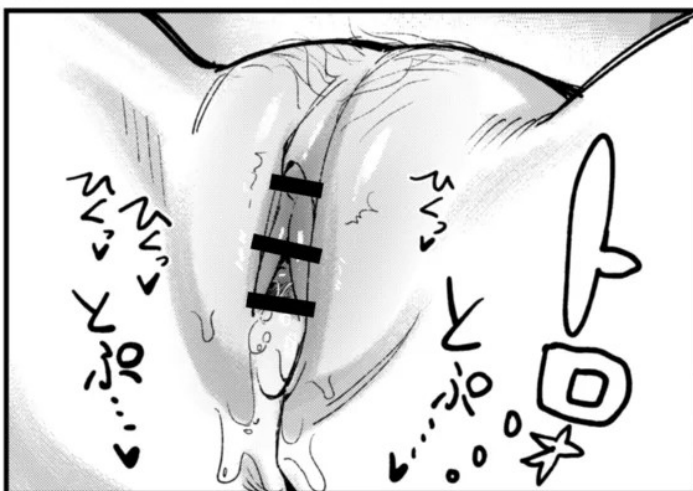














いい匂いがする…

…凛々花ちゃん



…すん

私には実の兄がいました
その兄との絆は
パパとママの手によって
断たれました



あの方達にそのような資格が
あるはずもないのに

パパは私の部屋に
カメラを忍ばせていましたし

ママは東京の弁護士の方と
不義を重ねていました



パパもママも
すーちゃんもお兄さんも
みんな大切な人を
傷つけたがって
いるのでしょうか？

おそろく
違います



秘密はまるで
お菓子のように
甘美で誘惑的

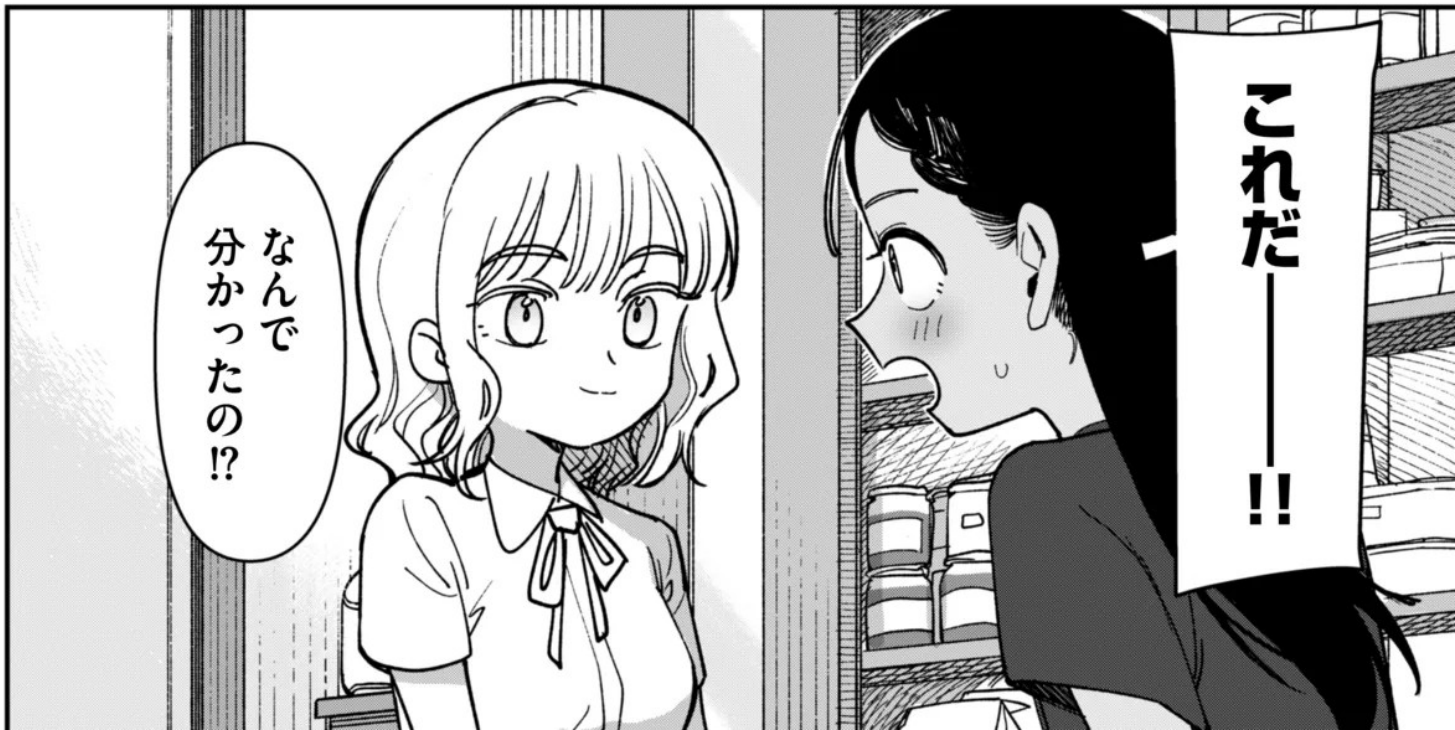
それは大切な人への
嘘でデコレーションされ
何重にも重なるほど
甘味が増していく



ああっ
みんなしてズルいわ
そんなモノを
隠し持って

全部私が食べて
あげなくっちゃ！





甘党で香りに
無頓着なすーちゃん
が珍しく「匂い」なんて
言うから――

ひびく…

きっと味覚ではなくて
嗅覚で覚えたものだろうと
思ったんです。

きっと夏前に私の家で嗅いだ
薔薇の匂いだったんでしょ

あくスツキリした
名探偵の前じゃ
ジャムの謎も
あつけない
ものだったね
なんで
忘れてたんだろう

あはは 真実って
面白くないんです

美味しいでしょ？





四章

エピソード

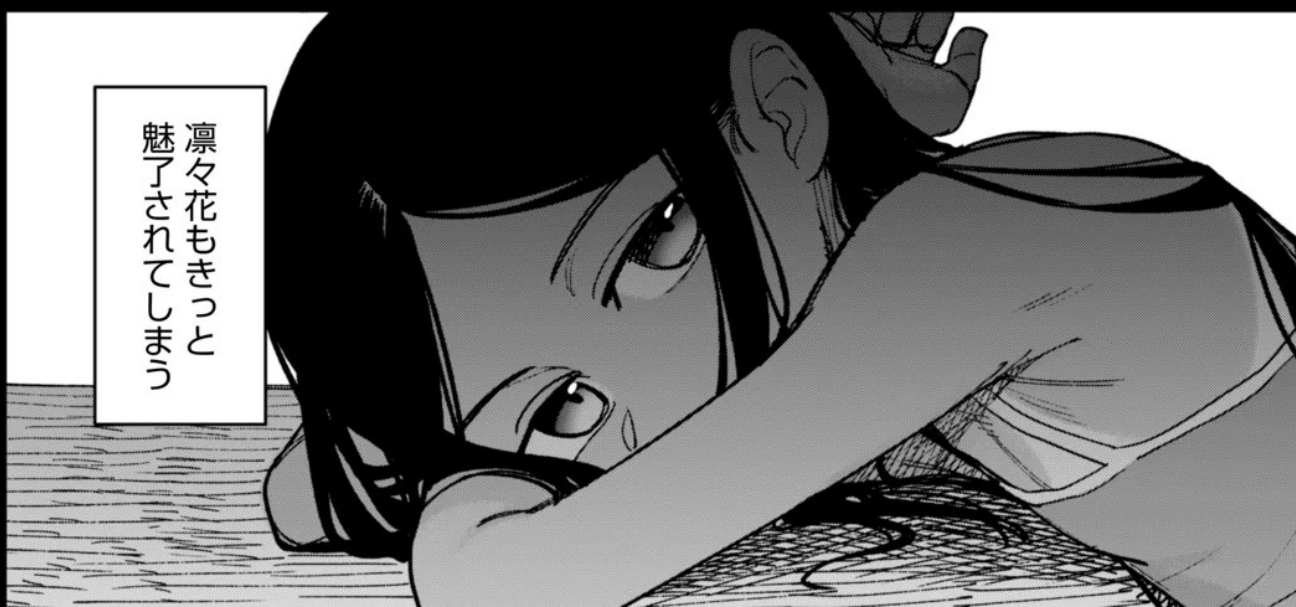


あきら
慧くんの瞳が好き
吸い込まれそうな瞳

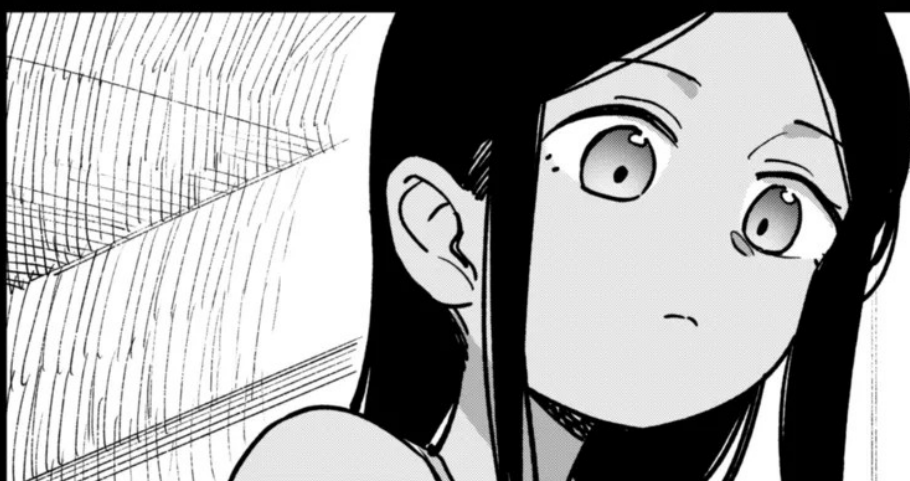
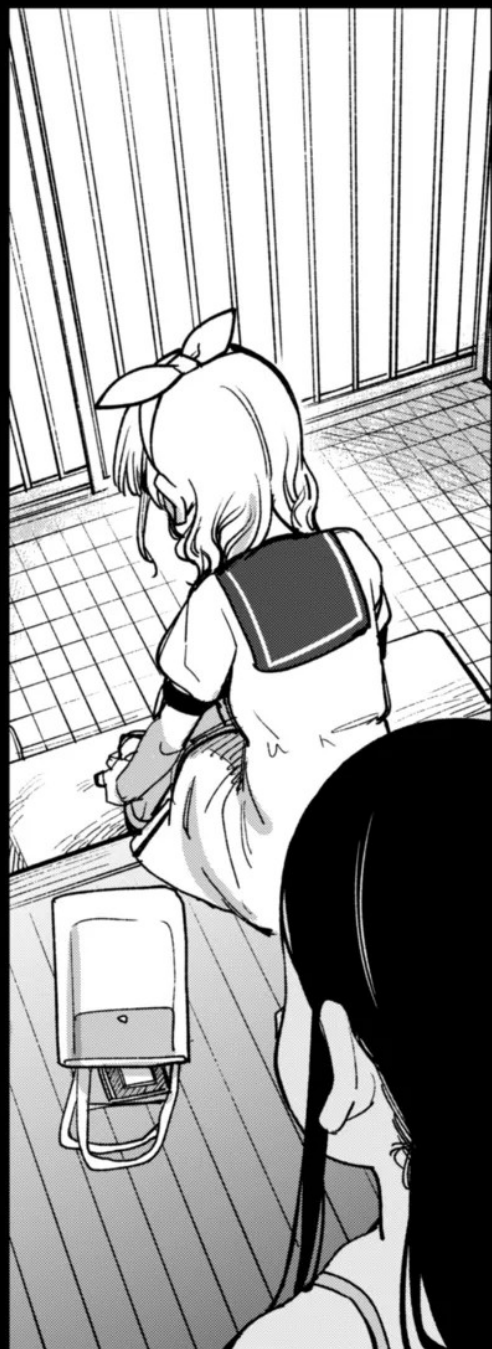
慧くんの声が好き
誰もが耳を
傾けたくなる声



凛々花と慧くんを
会わせたのは失敗だった



凛々花もきつと
魅了されてしまう



凜々花が読みかけの本を
取りに戻るのを知ってた

凜々花は読み終わるまで
いつも本を
持ち歩いていたら

でもまさか
こんなことに
なるなんて

悪かったって

機嫌なおせよ

しょうがないだろ
凛々花ちゃん
具合悪くなったんだから

嘘だ

足痛い…

振り向いて

もうあと少しだから
頑張れって

こっちを見てよ

私を見て

読書感想文で
読んだ本みたいだ

男の人が
死んじゃったお嫁さんを
取り戻しに
地獄までいくけど

神さまとの約束を
破って二度と
会えなくなるお話

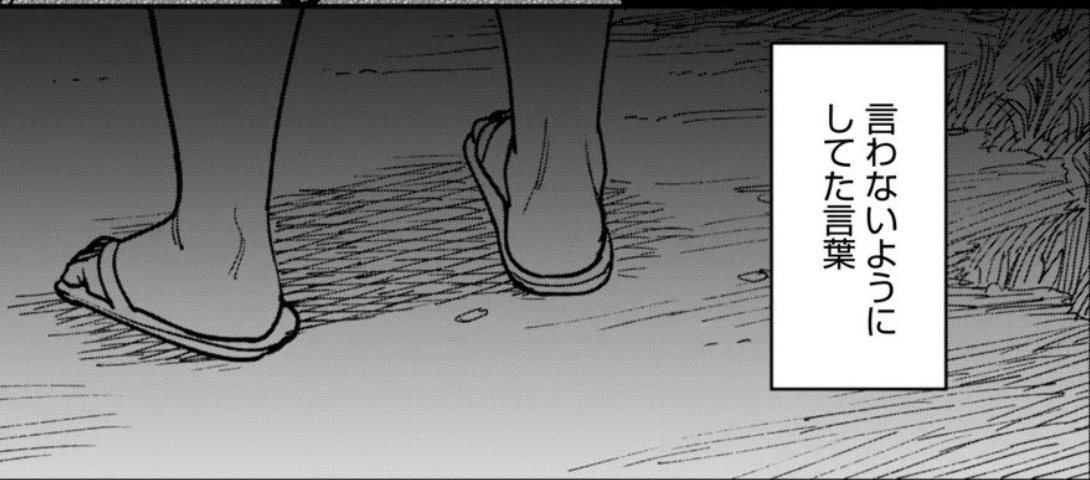
ここで振り向かせたら
もう永遠に
会えなくなるのかな

……おじさん

あきら
慧くん



あたしね
慧くんのが好き



言わないように
してた言葉

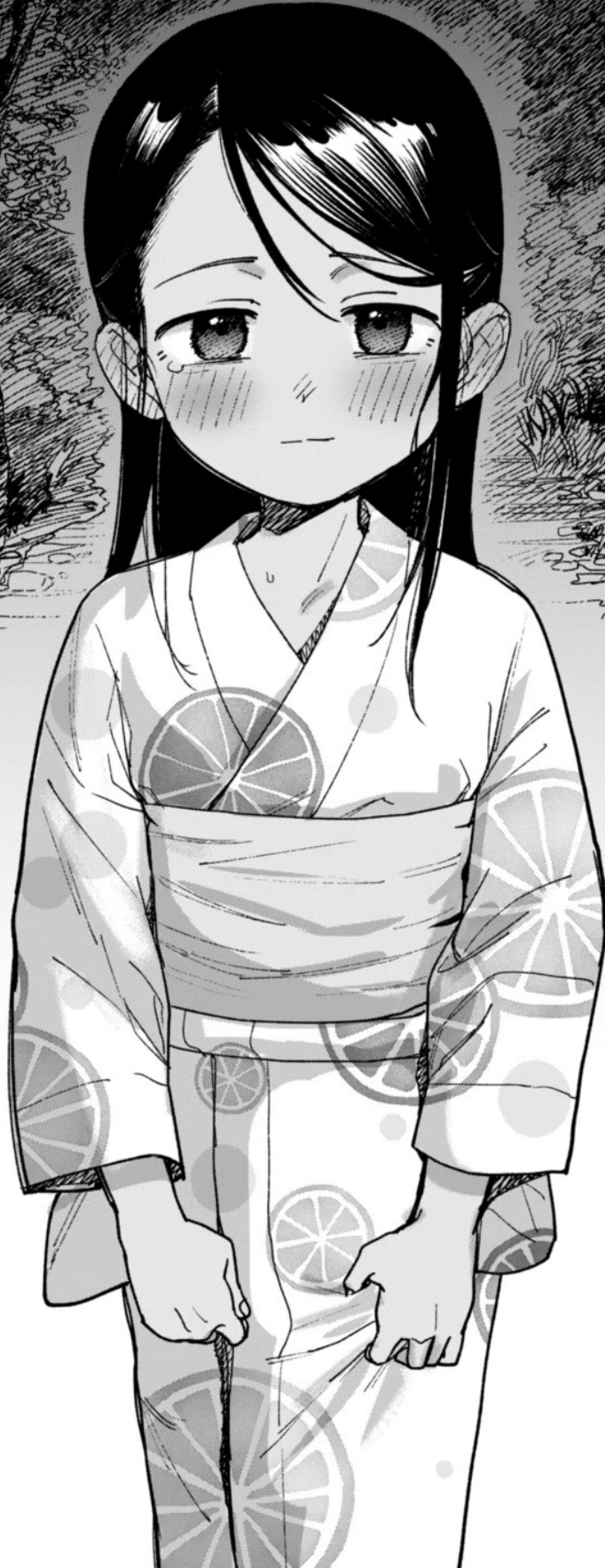
あたしたち
生まれた時から
恋人には
なれないから



言っではいけない
言葉

—それでも

どうか
今だけは



あとがき

まずはこの本をお手にとって頂いて本当にありがとうございます。

Dlsicやまから何か描いてみない？とお話を頂いて、ネームを切ってから一年以上経ってしまいました。90ページ以上の作品は描き切るのが大変ですね…

普段は商業漫画や二次創作を中心に活動をしていたので、創作同人誌で何ができるだろう？
みたいなどころがスタートだった気がします。

読み切り短編(20ページ前後)では扱いが難しそうなミステリー、神話要素にチャレンジしてみました。

ギリシア神話は子供の頃に読んだきりだったので改めて少し読んでみると面白かったです、乱れすぎだろ！
神話といたら西洋絵画ネタも外せないだろうってことで所々オマージュしたので探してみてください。

自分はアンゲルが好きです、性的嗜好が己の超絶デッサンを超えるところが。

凛々花は神話の中のなんの神様だろう？みたいな謎も作中の楽しみの一つになると思います。
アフロディTEEにミスリード出来たら思惑通りなんですが、いかがだったでしょうか…

ミステリーは門外漢だったので下手に謎解きは入れずに人間模様で終始しました。

凛々花の読んでる本やセリフに表れてます、おおよそ著者の所感です。ミステリ好きの方はごめんなさい！

小賢しいことを並べましたがシンプルにエロ漫画として楽しんでもらえてたら何より嬉しいです。
本作の続編を描く予定はない(誰も幸せになりそうもないので)ですが、

削ったエロシーンも多かったので何かしら形にするかもしれません。

それだけでなくともまだまだ色々描いてみたい作品はあるので、ご期待ください！

それではまた会える日まで！